

18 歳到達後の継続支援計画策定における 支援者向けガイドライン

平成 30 年 3 月

■ はじめに	3
I 18 歳到達後の者への自立支援に関する基本的事項について	4
1. 18 歳到達後の者への自立支援の現状	4
2. 社会的養護自立支援事業について	10
(1) 社会的養護自立支援事業の概要	10
(2) 社会的養護自立支援事業の実施状況	11
3. 18 歳到達後の者を対象とするガイドラインの作成	11
II 18 歳到達後の者の自立支援のためのアセスメントについて	12
1. アセスメントに関する基本的事項	12
(1) アセスメントの手法	12
(2) 「自立」の考え方	12
2. 18 歳到達後の者のアセスメント・計画策定・支援等における留意点など	13
(1) 対象の青年の意思を尊重した計画策定	13
(2) 障害の有無・種別等や被虐待経験に配慮した課題・支援方策の検討	14
(3) 支援関係者の役割分担	15
(4) 対象の青年の地域移動	16
(5) 妊娠、出産による生活の変動	16
(6) 進路に関する支援	17
III 継続支援計画の策定について	18
1. 継続支援計画の意義	18
2. 継続支援計画の策定	18
(1) 策定までの流れ（策定過程）	18
(2) 「子ども家庭総合評価票 青年後期（18 歳到達以降）」を活用したアセスメント	20
(3) 継続支援計画票の作成	21

■ はじめに

社会的養護関係施設では、「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」（昭和 23 年厚生省令第 63 号）、及び「児童養護施設等における入所者の自立支援計画について」（雇児福発第 0810001 号 平成 17 年 8 月 10 日）により自立支援計画を策定することが義務づけられている。また、里親家庭においては児童相談所が作成する自立支援計画に従い子どもを養育することとしている。

このような中、自立支援に関しては、18 歳到達後および施設退所後、措置解除後の継続的な支援について、様々な方針、施策が進められている。平成 28 年の児童福祉法改正により、自立援助ホームの対象者に、22 歳の年度末までの間にある大学等就学中の者も加えられたほか、平成 29 年度より事業化された「社会的養護自立支援事業」では、支援コーディネーターが 18 歳以上の対象の青年のアセスメントを原則措置解除前に行い、その結果を踏まえ本人、里親、施設等の意見を聞きながら「継続支援計画」を策定し、それに基づく支援を提供することとされた。また、平成 29 年 8 月に公表された「新しい社会的養育ビジョン」（新たな社会的養育の在り方に関する検討会）では、自立支援に関し「ケア・リーバー（社会的養護経験者）の実態把握を行うとともに、自立支援ガイドラインを作成し、概ね 5 年以内に、里親等の代替養育機関、アフターケア機関の自立支援の機能を強化する」ことが明記された。

一方、前述の継続支援計画の策定においては、その具体的な手法等をまとめたガイドラインはまだないことから、実際に支援の現場でケアプラン（自立支援計画）・継続支援計画を策定するにあたり有用なガイドラインを作成することは、18 歳到達後の者へのより適切な自立支援に大きく資するものと考えられる。

このような経緯・背景を踏まえ、社会的養護自立支援事業における支援コーディネーターが行う継続支援計画の策定に活用できるガイドラインとして、「18 歳到達後の継続支援計画策定における支援者向けガイドライン」を作成した。

また、既存の自立支援計画ガイドライン「子ども自立支援計画ガイドライン 更新版」（平成 29 年 3 月）についても、本ガイドラインの検討・作成の中で、必要に応じ所要の見直しを行い、両者をあわせた冊子を「子ども・若者ケアプラン（自立支援計画）ガイドライン」としてとりまとめた。目的に応じ、本ガイドラインとあわせて活用することをお勧めする。

これにより、施設等を退所した 18 歳到達後の者への自立支援が、より充実したものとなれば幸いである。

I 18 歳到達後の者への自立支援に関する基本的事項について

1. 18 歳到達後の者への自立支援の現状

- ◆18 歳到達後の者の自立支援にあたり、対象の青年の有する課題、支援内容などの実態を把握する目的で、「0 歳から 18 歳到達後の者に対する自立支援に関する調査」を実施した。調査の概要は以下のとおりである。

(参考) アンケート調査「0 歳から 18 歳到達後の者に対する自立支援に関する調査」

実施概要

- ・調査対象：
児童養護施設（603 施設・回収率 63.7%）、自立援助ホーム（141 施設・回収率 55.3%）、里親会（66 団体・回収率 54.5%）の施設職員並びに都道府県、政令指定都市、児童相談所設置市（69 自治体・回収率 95.7%）の担当職員
- ・実施時期：平成 29 年 11 月
- ・調査内容：各施設職員と里親および各自治体の担当職員に、18 歳到達後の者の自立支援における現状や課題等について調査。
各施設職員には社会的養護経験があり 18 歳以上である任意の入所者 5 名および退所者 6 名（最大）について、里親会には委託されている（いた）18 歳到達後の青年について、現在の状況や支援の内容および課題等について尋ねた。各自治体の担当職員には、社会的養護自立支援事業の実施状況等について尋ねた。

- ◆以下は主な調査結果である。なお、アンケートの詳細は、「社会的養護対象の 0 歳児～18 歳到達後で引き続き支援を受けようとする者に対する効果的な自立支援を提供するための調査研究（総合アセスメント及び自立支援計画・継続支援計画ガイドラインの作成）報告書」（平成 30 年 3 月 みずほ情報総研株式会社）を参照されたい。

①児童養護施設における 18 歳到達後の者の在籍者数

回答のあった児童養護施設について、施設全体の定員数は平均 52.8 人、暫定定員数は 45.8 人であった。このうち実際の在籍児童数についてみると、18 歳到達後の在籍者数は平均して 1 施設あたり 0.8 人であった。また、18 歳以上の在籍者がいると回答した施設は全体の 43.0% であり、在籍者が「1 人」の施設が 26.3%、「2 人」が 8.1%であった。

②18 歳到達後の者が有する自立支援の課題

○「基本的生活の確立や社会生活スキルの不足」が課題として最も多く挙げられ、その課題は多様に存在していた

- ・ 児童養護施設、自立援助ホームいずれからの回答においても、18 歳到達後の者が有する課題として「基本的生活の確立、社会生活スキルが十分でない」が最も多く挙げられた（45.4%：数値は児童養護施設入所者のもの。以下、本項において同じ）。また、「本人の自立に関する不安等が大きい」（39.5%）、「実親等との関係に悩みがある」（26.9%）などの心理面・人間関係面の課題や「退所後の生活費が確保できない」（19.1%）、「住居または家財道具等の確保が困難」（17.0%）といった生活上大きな支障となりうる課題、「障害（精神・知的・発達障害等）に配慮が必要」（25.6%）といった課題も回答割合が高かった。
- ・ 以上から、スキル構築等の実践的支援とあわせ、本人の不安や人間関係等、心理的側面からの配慮や経済的支援が重要であると考えられる。

図表 1 18 歳到達後の児童養護施設入所者の現在の課題（複数回答）

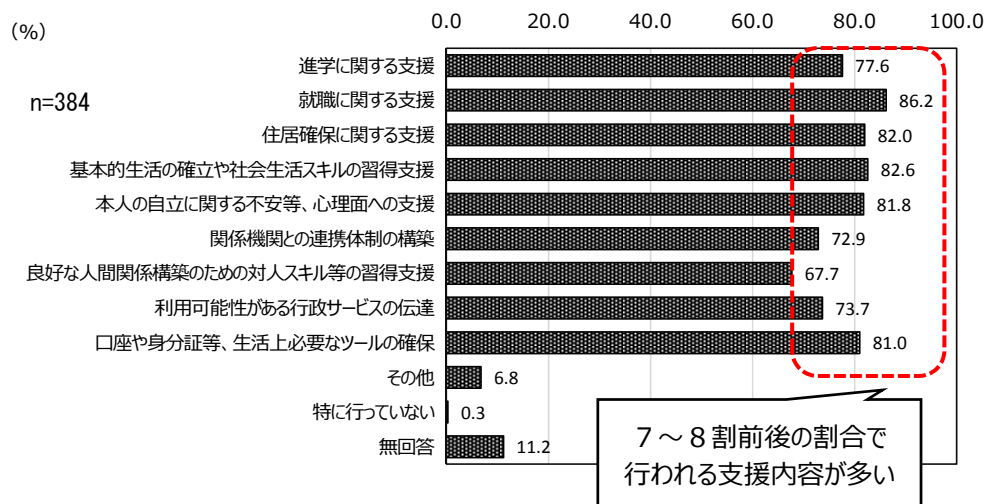
	現在の課題	うち、最も大きな課題
調査数	324	321
本人が希望しても進学するための条件が整わない	4.3%	2.5%
本人に合った就職先が確保できない	12.3%	5.0%
基本的生活の確立、社会生活スキルが十分でない	45.4%	16.2%
住居または家財道具等の確保が困難	17.0%	5.3%
本人の自立に関する不安等が大きい	39.5%	15.3%
本人の自立の意向が小さい	12.3%	5.0%
障害（精神・知的・発達障害等）に配慮が必要	25.6%	13.4%
退所後の生活費が確保できない	19.1%	9.0%
疾患・体調管理面の配慮が必要	9.0%	2.8%
充実した余暇が過ごせていない	1.5%	0.3%
職場や大学等で良好な人間関係を作れない	13.0%	4.7%
プライベートでの友人関係が希薄	6.5%	0.9%
友人・グループとの交流関係によるトラブルがある	6.5%	1.6%
自分の生き立ちに関する悩みがある	8.6%	0.6%
恋愛関係・配偶者との関係構築に課題がある	6.2%	0.6%
妊娠に関する課題がある	0.9%	0.0%
家族・親族の経済的トラブルに巻き込まれている	5.6%	2.5%
実親等との関係に悩みがある	26.9%	9.0%
その他	8.3%	5.3%

※図表 1 は、児童養護施設に入所している 18 歳到達後の方（2017 年 4 月 1 日現在）について、各施設から任意に 5 人を選び、その方の状況を回答いただいた内容を集計したもの。

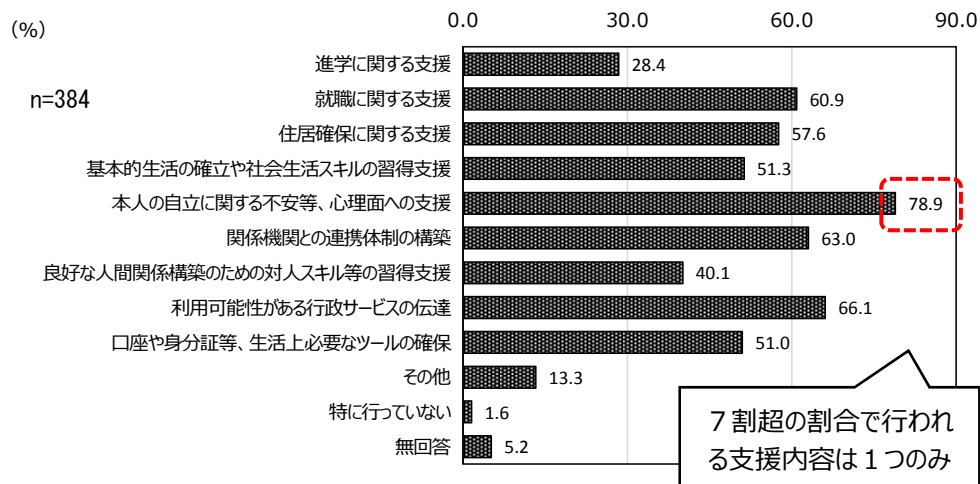
③18 歳到達後の者への支援内容

- ・施設等では 18 歳到達後の入所者や退所者に対し様々な自立支援（アフターケアなど）を行っている。特に 18 歳到達後の入所者に対しては、児童養護施設では 7～8 割の施設が「就職に関する支援」（86.2%）や「基本的生活の確立や社会生活スキルの習得支援」（82.6%）など多様な支援を行っている。一方、18 歳到達後の施設退所者に対して行われる支援については、「本人の自立に関する不安等、心理面への支援」（78.9%）に次いで、「利用可能性がある行政サービスの伝達」（66.1%）などが続くが、入所者への支援に比べ多くの自立支援の項目で、実施割合が低い傾向がみられる。
- ・このため、入所中のみならず退所後（措置解除後）も継続的な支援、フォローができる体制の構築が必要と考えられる。

図表 2 施設が 18 歳到達後の児童養護施設入所者に実施している自立支援の内容



図表 3 施設が 18 歳到達後の児童養護施設退所者に実施している自立支援の内容



○障害の有無・種別により課題の傾向が異なる

- ・何らかの障害のある方の現在の課題についてみると、「基本的生活の確立、社会生活スキルが十分でない（障害有：51.6%、障害無：35.3%）」、「住居又は家財道具等の確保が困難（障害有：25.0%、障害無：9.5%）」などの項目で回答の割合が高い傾向がみられた（※「障害有」の割合は、いずれかの障害がある者のうち、当該課題がある者の割合を別途算出した）。
- ・また、障害の種別で見ると、「本人に合った就職先が確保できない」（26.9%）、「本人の自立に関する不安等が大きい」（46.2%）、「疾患・体調管理面の配慮が必要」（30.8%）、「自分の生い立ちに関する悩みがある」（23.1%）などの項目で、精神障害のある者の回答の割合が高い傾向がみられた。
- ・「障害（精神・知的・発達障害等）に配慮が必要」の項目を見ると、いずれの障害の種別でも6割以上と回答割合が高く、支援の必要性が大きいことが伺える。自立支援にあたっては個別化を基本としながらも、障害があることで上記のような課題を抱えている可能性を考慮することで、ニーズのよりの確な把握が実現できると考えられた。

図表4 児童養護施設に入所中の18歳到達後の者の

障害の有無別にみた現在の課題

	調査数	本人が希望しても進学するための条件が整わない	本人に合った就職先が確保できない	基本的生活の確立、社会生活スキルが十分でない	住居または家財道具等の確保が困難	本人の自立に関する不安等が大きい	本人の自立の意向が小さい	障害（精神・知的・発達障害等）に配慮が必要	退所後の生活費が確保できない	疾患・体調管理面の配慮が必要	充実した余暇が過ごせていない
身体障害	5	0.0%	0.0%	80.0%	20.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%
知的障害	69	0.0%	20.3%	50.7%	26.1%	34.8%	5.8%	63.8%	8.7%	7.2%	2.9%
精神障害	26	7.7%	26.9%	50.0%	26.9%	46.2%	15.4%	69.2%	23.1%	30.8%	3.8%
発達障害	29	6.9%	17.2%	55.2%	24.1%	41.4%	6.9%	62.1%	17.2%	10.3%	3.4%
なし	232	4.3%	6.0%	35.3%	9.5%	35.3%	13.4%	2.2%	19.8%	5.6%	0.9%

	調査数	職場や大学等で良好な人間関係を作れない	プライベートでの友人関係が希薄	友人・グループとの交流関係によるトラブルがある	自分の生い立ちに関する悩みがある	恋愛関係・配偶者との関係構築に課題がある	妊娠に関する課題がある	家族・親族の経済的トラブルに巻き込まれている	実親等との関係に悩みがある	その他
身体障害	5	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
知的障害	69	10.1%	7.2%	10.1%	2.9%	7.2%	1.4%	7.2%	17.4%	4.3%
精神障害	26	11.5%	7.7%	3.8%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	30.8%	7.7%
発達障害	29	13.8%	0.0%	10.3%	6.9%	10.3%	0.0%	3.4%	27.6%	17.2%
なし	232	11.2%	6.0%	4.3%	6.9%	4.7%	0.9%	4.7%	25.0%	7.8%

○被虐待経験の有無により課題の傾向が異なる

- ・被虐待経験のある方では「実親等との関係に悩みがある」（29.8%）、「職場や大学等で良好な人間関係を作れない」（14.3%）、「恋愛関係・配偶者との関係構築に課題がある」（8.0%）など、人間関係に関する課題について、被虐待経験の無い方と比べ割合が高い傾向がみられた。
- ・就職・就業先での人間関係の構築は、離職・退学とも関係する可能性があり、自立した

生活を営むために必要なスキルとも考えられる。

- ・自立支援にあたっては個別化を基本としながらも、被虐待経験があることで実親等との関係など人間関係の構築に支障が出ていないか等の視点を意識することは、より適切な支援の実現につながるのではと考えられた。

**図表 5 児童養護施設に入所中の 18 歳到達後の者の、
被虐待経験の有無別にみた現在の課題**

	調査数	本人が希望しても進学するための条件が整わない	本人に合った就職先が確保できない	基本的な生活の確立、社会生活スキルが十分でない	住居または家財道具等の確保が困難	本人の自立に関する不安等が大きい	本人の自立の意向が小さい	障害（精神・知的・発達障害等）に配慮が必要	退所後の生活費が確保できない	疾患・体調管理面の配慮が必要	充実した余暇が過ごせていない
被虐待経験 有	238	5.5%	10.1%	38.7%	13.0%	36.6%	9.7%	24.8%	16.8%	8.8%	1.3%
被虐待経験 無	121	0.8%	13.2%	45.5%	19.0%	33.9%	14.0%	19.8%	18.2%	6.6%	1.7%

	調査数	職場や大学等で良好な人間関係を作れない	プライベートでの友人関係が希薄	友人・グループとの交流関係によるトラブルがある	自分の生き立ちに関する悩みがある	恋愛関係・配偶者との関係構築に課題がある	妊娠に関する課題がある	家族・親族の経済的トラブルに巻き込まれている	実親等との関係に悩みがある	その他
被虐待経験 有	238	14.3%	5.9%	7.1%	8.8%	8.0%	0.8%	5.9%	29.8%	7.1%
被虐待経験 無	121	6.6%	5.8%	3.3%	5.8%	0.8%	0.8%	3.3%	13.2%	8.3%

④自立支援における職員等支援者の課題

○自立支援が職員の負担につながる

- ・施設運営等における支援にあたっての問題点では、「職員の長時間労働が生じやすくなる」が児童養護施設・自立援助ホームともに最も回答割合が高かった（それぞれ 63.8%、59.0%）。
- ・自立支援において、施設、または里親が担うべき役割と、児相や市町村窓口等が担う役割を明らかにすることで、施設が自立支援を一手に担い、負担となることを軽減しうると考えられた。

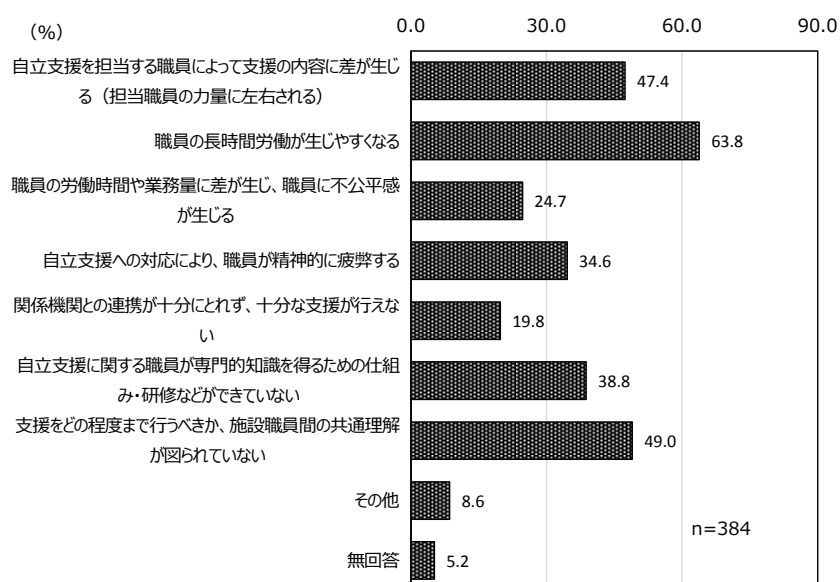
○自立支援の質に差が生じている

- ・児童養護施設では「支援をどの程度まで行うべきか、施設職員間の共通理解が図られていない」（49.0%）、「自立支援を担当する職員によって支援内容に差が生じる」（47.4%）など、職員間の支援の差を指摘する意見が多かった。また、「自立支援に関する職員が専門的知識を得るための仕組み・研修などができていない」も、両施設とも 4 割近い回答がみられた（それぞれ 38.8%、37.2%）。
- ・自立支援を実際に行っている職員は、児童養護施設では 92.6%、自立援助ホームでは 42.3%が「当該児童を受け持つ担当職員」と最も多く、すべての職員が自立支援における理解を深めること、または自立支援にあたりスーパーバイザーや施設内外の専門職

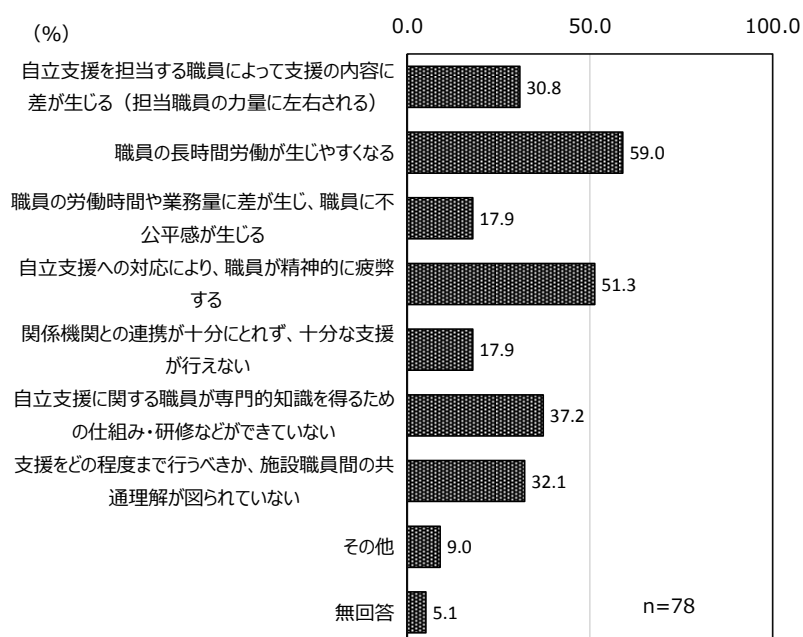
から支援を受けられる体制構築が望ましい。

- ・また、自立支援にあたり関係機関が連携することで、関係機関が協議した上での明確な方針に基づいた質の高い支援を行うことも期待される。

図表6 18歳到達後の者の支援にあたり生じた、施設運営や職員等に関する課題・問題点（児童養護施設）



図表7 18歳到達後の者の支援にあたり生じた、施設運営や職員等に関する課題・問題点（自立援助ホーム）



2. 社会的養護自立支援事業について

(1) 社会的養護自立支援事業の概要

- ◆前述した社会背景、政策動向等の中、平成 29 年より、22 歳の年度末までの間にある大学等就学中の者も自立援助ホームの対象者とされたほか、里親委託や児童養護施設等の入所措置となっていた者について、18 歳到達後も原則 22 歳年度末まで必要な支援を行う「社会的養護自立支援事業」が平成 29 年度から事業化された。
- ◆当事業は都道府県、指定都市、児童相談所設置市を実施主体とする（委託も可）。また、事業の概要は下記のとおりである。

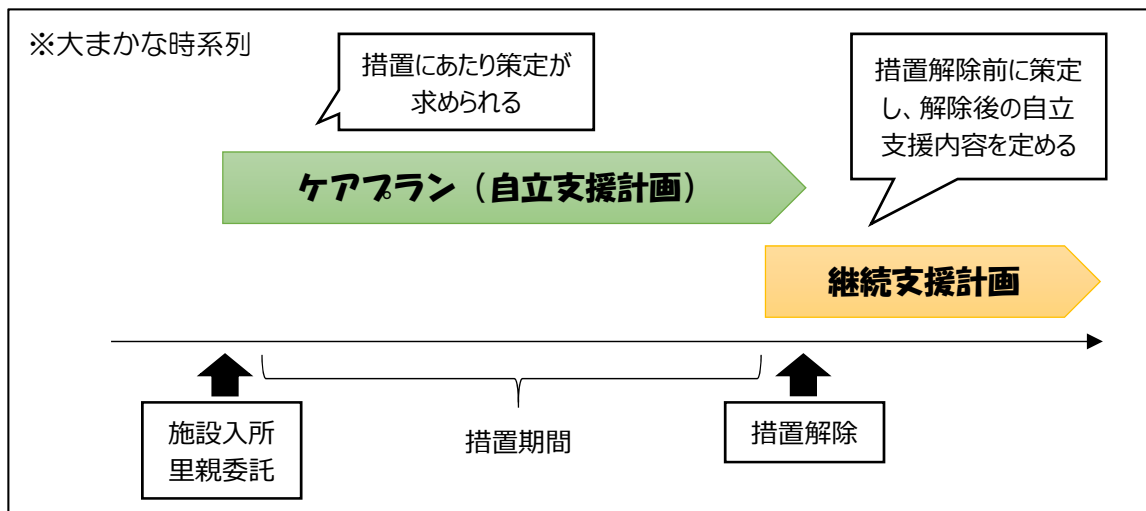
①目的	里親等への委託や、児童養護施設等への施設入所措置を受けていた者で 18 歳（措置延長の場合は 20 歳）到達により措置解除された者のうち、自立のための支援を継続して行うことが適当な場合について、原則 22 歳に達する日の属する年度の末日まで、個々の状況に応じて引き続き必要な支援を実施することなどにより、将来の自立に結びつける
②事業内容 (一部)	<u>(1) 支援コーディネーターによる継続支援計画の作成</u> 社会的自立に向けた支援上の課題、目標、具体的な支援内容などを定める継続支援計画の作成 など <u>(2) 居住に関する支援</u> 居住の場の提供、居住に要する費用の支給 など <u>(3) 生活費の支給</u> 対象者が居住する場として、里親の居宅、ファミリーホーム、自立援助ホームや施設等に居住する場合の生活費を支給 など <u>(4) 生活相談の実施</u> 退所を控えた者に対する支援、退所後の支援 など <u>(5) 就労相談の実施</u> 就労支援チームの設置、適切な職場環境の確保及び必要な支援 など

出典)「社会的養護自立支援事業等の実施について」(雇児発 0331 第 10 号 平成 29 年 3 月 31 日)

- ◆社会的養護自立支援事業では、上表のとおり「支援コーディネーター」が 18 歳到達後の対象の青年のアセスメントを原則措置解除前に行い、その結果を踏まえ対象の青年、里親もしくは施設等の意見を聞きながら「継続支援計画」を策定し、それに基づく支援を提供することとしている。継続支援計画には、自立に向けた支援上の課題、そのために達成すべき支援目標、目標達成のための具体的な支援内容（居住に関する支援や生活費の支給の必要性やその方法、生活相談の実施・就労相談の実施の方法等）を定める必要がある。
- ◆ケアプラン（自立支援計画）は、施設入所後や里親委託後に策定されることが求められる

が、継続支援計画は施設入所・里親委託中（措置解除前）に策定されることとなる。

- ◆このため、支援コーディネーターには、対象の青年の個性・特性、生活環境、社会的背景等を十分把握するとともに、自立支援に向けて新たにアセスメントすべきポイントの理解、利用できる社会資源の内容等を熟知した上で、適切な継続支援計画の策定に向けた専門性を発揮することが必要となる。



（２）社会的養護自立支援事業の実施状況

- ◆前述の、0 歳から 18 歳到達後の者に対する自立支援に関する調査では、調査の対象になった施設に対して事業の認知度についても尋ねている。その結果、平成 29 年 4 月時点で、当事業の「事業内容は知っている」児童養護施設が 52.6%、「名前は知っている」児童養護施設は 32.8%であった。一方、「委託を受け実施している」児童養護施設は 5.5%であった。
- ◆また、当事業の実施主体である都道府県等についてみると、当事業を実施している都道府県等は平成 29 年 9 月時点で 33.3%と、半数以下の状況であった。
- ◆法改正等により、18 歳到達後の者の支援体制は徐々に整備されつつあるが、支援コーディネーターの配置については今後各自治体がより積極的に実施することが期待される。

3. 18 歳到達後の者を対象とするガイドラインの作成

- ◆現在、18 歳未満の対象の青年については、本事業での更新を行った「子ども・家族への支援計画を立てるためにー子ども自立支援計画ガイドラインー」や「子ども家庭総合評価票」といったアセスメントツールが作成、活用されているが、18 歳到達後の者についての同様のガイドラインはまだない。
- ◆このため、18 歳到達後の者の自立支援においてもその対象の青年が抱える支援ニーズを明確にし、各支援者による質の高い支援が提供できるよう、18 歳到達後の者を対象とする継続支援計画ガイドラインを作成するものである。

Ⅱ 18 歳到達後の者の自立支援のためのアセスメントについて

1. アセスメントに関する基本的事項

(1) アセスメントの手法

- ◆自立支援においては、対象の青年の個性・特性や社会的背景を踏まえた的確なアセスメントが必要であり、その根本となるのはソーシャルワークの技法に基づく面接、行動観察、家庭環境調査で得る情報に加え、専門職が実施する心理検査や医学的診断の結果等が非常に重要である。また、こうした情報をどのような手法でどの程度集めるか、といった個々の判断が随所に求められる。
- ◆こうした各種手法については、「子ども・若者ケアプラン（自立支援計画）ガイドライン」の（第2部 Ⅱ「アセスメント（社会・心理・医学・行動診断等）のための方法」）に詳細な記載があり、こちらを参照されたい。
- ◆なお、本ガイドラインが想定する対象の青年の年齢は、社会的養護自立支援事業が対象とする「22 歳に達する日の属する年度の末日」までを原則としているが、22 歳以降でも自立支援の必要性が高い者は多く存在することから、22 歳以降の支援もある程度想定して作成したものである。

(2) 「自立」の考え方

- ◆一言で「自立」と言った際にも、その中には精神面での自立や金銭面での自立など、様々な意味が含まれる。子どもが一人前になるために必要な自立には「①生活自立」「②経済的自立」「③精神的自立」「④市民的自立」の4つの側面があるものと考えられ、自立支援にあたる専門職はこうした側面を理解することがまず重要である。
- ◆その上で、これら4つの自立の観点から、対象の青年がどの段階にいるかをアセスメントし、「自立」に向けて各側面において必要な支援内容を検討する。
- ◆なお、これら4つの自立は必ずしも同時に達成されるわけではなく、対象の青年の置かれている環境やそれまでの体験等により、達成の内容、時期も異なる。このため、対象の青年の考え、能力、発達特徴等を踏まえ、その対象の青年にとっての「自立」とは何かを考えることが、アセスメントの前提として重要である。

「4つの自立」	概要	達成のための方法例
①生活自立	炊事、洗濯などの衣服の管理、掃除といった基本的な生活習慣の確立と生活時間の管理	家事等を意識的・計画的に体験していくための支援
②経済的自立	就職の実現とその継続および職場への適応、計画的な金銭管理の実施	進路決定や職業訓練等の支援、対象の青年がやりがいのある仕事を選択するための支援
③精神的自立	他者との親密な関係性を維持しながらも自己決定と自己責任を全うし、自己肯定感を持てるようになること	親密な他者との安定した関係を形成・維持するための支援
④市民的自立	自分と社会とのかかわりの理解、社会的規範や公共性の獲得（シティズンシップ）、社会参加の実現	政治的権利と義務の遂行の必要性の理解、社会参加への支援

2. 18歳到達後の者のアセスメント・計画策定・支援等における留意点など

◆社会的養育ビジョンでは、代替養育を離れたのち、地域における継続的支援に関して、考慮される必要がある事項として以下の点を挙げている。

- ① 一定年齢までの定期的な面談と相談機会の確保
- ② 社会保障、医療サービス等、社会制度の利用の支援
- ③ 地域生活開始の初期費用の支給と日常生活能力の形成
- ④ 金銭管理の支援と債務問題の回避
- ⑤ 暴力被害（性暴力を含む）時の早期介入と支援
- ⑥ 法的支援の保障と弁護士費用等の確保
- ⑦ 職場定着の促進と離職時の生活支援

こうした点を考慮して、アセスメント・計画策定にあたる必要がある。

◆また、18歳到達後の者のアセスメント・計画策定・支援などにあたっては、その特徴に鑑み、「子ども・若者ケアプラン（自立支援計画）ガイドライン」に記載されている内容のほか、下記などの点に留意することが重要である。

（1）対象の青年の意思を尊重した計画策定

◆社会的養育ビジョンでは、「自立支援は当事者の参画と協働を基本原則とする。参画過程において十分に支援される必要もあり、場合によってはアドボケイトを伴った参画も考慮されるべきである。」と提言されている。

◆18歳到達後の者は、その個性、能力、価値観等にかかわらず個別の独立した個人であり、策定するケアプラン（自立支援計画）・継続支援計画も、自らがどこでどのように生活したいか、どう生きたいかという考えを重視した、自己実現に資する計画とすることが大

切である。

- ◆このような観点から、ケアプラン（自立支援計画）・継続支援計画の策定は、対象の青年と支援者がともに作り上げていくことが重要であり、支援者が一方的に策定することがないように、意識して支援に当たることが必要となる。

取組例：

- ケアプラン（自立支援計画）・継続支援計画策定の話し合いの際は、原則対象の青年本人が同席
…方針検討に対象の青年が主体的に関与することで、より意向を反映させた計画とする。
- 適時適切な面接技法や多様な経路からの情報収集を活用した、対象の青年の真のニーズ、思いの把握
…対象の青年の希望が、どのような考えから生まれているかを明らかにする。例えば、施設退所後の進路を就職・就学のどちらにするか悩んでいる対象の青年がいた時に、なぜ就職・就学の選択を悩んでいるのかを支援者が理解する。
「やりたい仕事がある」「一日も早く経済的に自立したい」「就学を希望しているが経済的に難しいのではと考えている」など様々な理由が想定されるが、例えば就学の費用に関して利用できる奨学金、自治体による生活費の支援などがあるかも知れず、そうした制度を活用することで、対象の青年が本当に望む生活が実現できる可能性がある。
- 具体的・現実的な継続支援計画および支援内容の検討
…対象の青年が希望している生活は、専門職が客観的に評価した際に必ずしも実現可能性が高いものばかりではないとも想定される。対象の青年が希望する生活を実際に行ってみたときに、どのような生活上の課題が想定されるか（生活費の不足、対象の青年の身体的・精神的負担、困った時の支援の有無）をできるだけ細かく洗い出し、対象の青年に提示・協議することで、より地に足のついた現実的な計画策定が可能となる。

※あくまで一例であり、実際の支援は様々な条件を考慮し、最適な手法をとることが必要。
（以下「具体的な取組」についても同様）

（２）障害の有無・種別等や被虐待経験に配慮した課題・支援方策の検討

- ◆18歳到達後の者の中には、知的障害、発達障害、精神障害等何らかの障害がある者も一定数いると考えられる。「0歳から18歳到達後の者に対する自立支援に関する調査」アンケート結果によれば、何らかの障害のある方では「基本的生活の確立、社会生活スキルが十分でない」「住居又は家財道具等の確保が困難」など、複数の項目で障害のない方より回答割合が高い傾向がみられた。
- ◆「障害があるからこのようなことが困るはずだ」などの先入観を持つことなく、個別化を基本とした支援をすることは、自立支援に関わらずソーシャルワークの原則である。一方、障害に起因する自立支援上の課題がないか、これに対する適切な支援は必要かと

いった検討もアセスメント上欠かせない視点であり、丁寧にニーズを把握していくことが重要となる。

- ◆また、障害の種別・程度によっては、将来の自分の生活を具体的かつ現実的に考えることが難しいケースも想定される。この場合も、対象の青年からの信頼が厚い家族や専門職などが対象の青年の意向を適切に計画に反映させるなど、代弁的機能を伴った専門的支援が必要である。
- ◆また、被虐待経験の有無によっても、実親等との関係や、職場や大学等の人間関係、恋愛関係の構築等に課題がある割合が高い傾向がみられたことから、同様の配慮ある専門的支援が必要である。

取組例：

○基本的な日常生活、社会生活が自立して営めるか、詳細に確認

…アンケート結果では、「基本的生活の確立、社会生活スキルが十分でない」の項目において、障害のある者の該当割合が比較的高かったことから、例えば軽度知的障害のある者が学習や就労上困ったことが生じないか、悪意のある第三者により、権利擁護的観点から問題となる関与をされないか、といった検討の必要性に留意する。

○心理面の課題にどう対応するか（対応が必要か）についての検討

…精神障害のある者では、「自分の生き立ちに関する悩みがある」など、人間関係に関する項目の回答割合が高い傾向にあった。心理面の課題は、友人、恋愛等深い人間関係の構築など、生活の様々な場面で影響する可能性もあり、心理的葛藤に関する評価やサポート体制の構築をすすめることが必要な場合もあるであろう。

（３）支援関係者の役割分担

- ◆社会的養護自立支援事業実施要綱においては、継続支援計画の策定にあたり、対象の青年のほか、児童相談所の担当職員、里親、施設職員など対象の青年の支援に携わってきた職員等を含めた会議を開催することとしている。
- ◆こうした関係者が緊密な連携のもと措置解除後の支援を行うこととなるが、「対象の青年に何か困ったことがあればまず最初に相談する窓口」「制度的な相談、検討を担う機関」「気軽に立ち寄り、話ができる場所」など、各機関の役割分担や、とりまとめ、総合的な管理を行う機関を明確にする必要がある（継続支援計画を策定する立場の支援コーディネーター等が、とりまとめを担うことが想定される）。
- ◆役割分担にあたり、児童相談所等の行政の専門機関は多忙であることも多く、また児童養護施設も日々の入所者のケア、里親も自身の生活等があるなど、各々の置かれている環境、事情により、すべての対象の青年の自立支援に携わることが現実的ではない場合も想定される。各機関等がそれぞれの事情を踏まえ、持続可能な支援体制を構築できるよう、役割分担において配慮すべきである。

（４）対象の青年の地域移動

- ◆就職、就学、また人間関係の変化や結婚など様々な理由で、対象の青年が別の自治体に移動すると、児童相談所・市町村担当者の変更や物理的制約による施設、里親等との関係性の希薄化が生じることも想定される。この際、対象の青年に継続的な支援が必要で、かつ関係者に連絡無く引っ越された場合に、支援体制が瓦解する懸念もある。
- ◆地域移動があった際にも円滑に関係者間の引き継ぎ、連携体制の再構築ができるよう、対象の青年の地域移動等に対応しうる計画策定にも配慮することが望ましい。

取組例：

○ライフイベントのモニタリング（イベントを関係者が把握できる仕組み）

…就職、就学、結婚、妊娠、家族の変化（親の引越し、病気、離婚等）など、住居が変わるきっかけとなる種々のライフイベントが生じた際に、関係者が適宜把握できる体制をつくる。

例えば、対象の青年に上記のようなことがあったり、引越しを検討したりする際には、関係者に一報を入れるように依頼・約束をするなど。

※ 地域移動に伴うケース移管について

対象の青年の地域移動に伴うケース移管については、少なくとも次のような点に留意しながら丁寧かつ綿密に行われなければならない。

- ① 担当している関係者（児童相談所、里親、施設職員、学校など）が出向いて、新たに担当する関係者（支援コーディネーターを含む）に情報提供・説明・協議などを行うこと（事前協議を含む）。
- ② 原則として青年が参加して双方の関係者間で継続支援計画などの引継ぎを行うこと。
- ③ 双方の関係者間で定期的かつ必要に応じて情報提供を行い、情報の共有化を図ること。
- ④ 移動後の生活環境の変化やトラブルなどに青年が適切に対応できているのか把握するために、担当していた関係者が定期的かつ必要に応じて訪問、通信などによって対応すること。
- ⑤ 移動先の支援コーディネーターは定期的かつ必要に応じて連絡をし、相談に応ずること。
- ⑥ 移動先で青年にとってアドボケイトになる方を可能な限り紹介すること。
- ⑦ 移動先での交友関係がない場合には、本人の意向に基づき、サークル活動や当事者団体などを紹介すること。

（５）妊娠、出産による生活の変動

- ◆パートナーとの家族形成、妊娠、出産（対象の青年・パートナー）時は、生活が大きく変動し、新たな生活の形成と子どもの養育に関する支援が必要であることから、より集中的な支援の構築と母子保健、子育て支援等の他制度へのつなぎと活用が重要である。
- ◆ケアプラン（自立支援計画）・継続支援計画の策定にあたっては、新たにパートナーと形成した家族が対象の青年にとってどのような場所であるか、パートナーとの関係性はどうか、また妊娠、出産にあたり対象の青年およびパートナーがどのような過ごし方をしているかといった事項を把握し、健やかな生活が営めるよう支援する計画を策定するこ

とが大切である。

取組例：

○（妊娠中の場合）出産に対する、対象の青年・パートナーの心構えや準備状況を把握し、計画を立て、必要に応じた支援の実施。

…通常、妊娠・出産は対象の青年や家族の生活を大きく変える出来事であり、また子どもを育てるためには乳児のケアに関するスキル習得（授乳、おむつ交換、お風呂など）、物理的な環境の整備等様々な準備が必要。そのための計画を策定し、これが適切に行われているかを評価し、必要に応じ支援することで、より適切な育児、子どもの健やかな育ちが期待できる。

（６）進路に関する支援

◆進路保障の在り方については、代替養育の場において高卒後の進学、就学機会の保障と経済的支援、職業訓練、就労機会の確保等を考慮することが必要であり、前述のとおり、自立を「①生活自立」「②経済的自立」「③精神的自立」「④市民的自立」の４つの観点からとらえると、経済的自立を促進する支援として適切な進路決定を促すことは大変重要である。

◆自立支援にあたって、対象の青年の意向のもと、就労・就学といった進路を考えていくことは不可欠であり、またその実現にあたっての課題は何か、経済面、社会生活スキル（対人関係の構築能力等）、学力、身体能力等様々な側面から検討することが必要である。

取組例：

○就労につなげるための公的訓練制度等の活用

…自治体等が実施する公共職業訓練、生活困窮者自立支援法に規定される就労訓練事業、障害者総合支援法における就労継続支援・就労移行支援等、活用可能な制度が対象の青年の特性等に応じ様々なものが用意されているため、対象の青年のニーズとこうした制度のマッチングを検討する。

Ⅲ 継続支援計画の策定について

1. 継続支援計画の意義

- ◆社会的養護自立支援事業実施要綱では、継続支援計画について下記のように定められており、これらの項目を定め、実践することで、対象の青年にとっての自立した生活を実現できるよう支援することが重要である。

対象者の心身の状況や生活状況、保護者の状況など家庭環境、学校若しくは就労先の環境など必要な情報を収集しアセスメントを行い、社会的自立に向けて、

- ・支援上の課題
 - ・課題解決のための支援目標
 - ・目標達成のための具体的な支援内容・方法（居住に関する支援や生活費の支給の必要性やその方法、生活相談の実施・就労相談の実施の方法等）
- などを定め、退所後の生活等を考慮した計画を作成すること。

（※実施要綱より：体裁について一部改変）

2. 継続支援計画の策定

（1）策定までの流れ（策定過程）

- ◆継続支援計画を策定する役割は、事業の要綱上「支援コーディネーター」にあると定められている。また、支援コーディネーターによる継続支援計画の策定は、児童相談所が情報共有・確認することが必要とされている。こうしたことを踏まえ、誰が支援コーディネーターを担うかが決定されることが最初に必要である（決定は、実施主体である都道府県等が行うこととなる）。
- ◆支援コーディネーターを中心とする対象の青年のアセスメントは、前述の基本的事項および留意点に配慮しつつ、対象の青年本人に関すること（居場所、就労・就学状況、生育歴、心身の健康状況、発達の特徴等）、家庭に関すること（原家族の家族構成、家族の心身の健康、婚姻等により形成された家族の有無・状況等）、居住地域に関すること（周辺環境の社会資源、ソーシャル・サポートの有無等）など、様々な観点から対象の青年の生活を評価することが必要であり、計画策定にもこれらの状況を総合的に加味した検討が求められる。
- ◆また、対象の青年の既存のケアプラン（自立支援計画）と一貫した内容とすることが対象の青年の継続的な支援にあたり重要であるため、支援コーディネーターはケアプラン（自立支援計画）の内容について熟知しておく。
- ◆上記のように把握、検討すべき項目は対象の青年の置かれる状況により多岐に渡り、そのために計画策定の流れは画一的なものではなく、様々な状況で変わることが想定されるが、ここでは一例として、策定の流れを下記のとおり示す。

①対象の青年本人、関係者等からの情報収集

- ・都道府県等（児童相談所）や事業の委託先の支援コーディネーターが、アセスメントに必要な情報を把握する。
- ・対象の青年との面接に加え、観察、関係者からの聞き取りや既存情報の活用等、多様な情報源をもとに正確かつ効率的な把握に努める。



②自立支援に向けたアセスメントの実施

- ・①で収集した情報等から、本人の自立支援における課題、強み、必要な支援等をアセスメントする。
- ・適切なアセスメント及びそのための情報収集を行うため、本ガイドラインでは「子ども家庭総合評価票 青年後期（18歳到達以降）」を作成、掲載しているので、こちらも活用されたい（後述）。



③継続支援計画（案）の策定

- ・②のアセスメント情報により、支援コーディネーターが継続支援計画案を策定。
- ・計画案の策定段階で、原則本人に参加してもらうことが望ましい。これにより、本人が、自分の支援体制・目標がどのように設定されているかを理解し、これに向けた主体的な活動が期待されるとともに、関係者の支援の方向性に齟齬が生じることを避ける。



④関係者間の協議（計画記載内容の検討、役割分担の明確化等）

- ・③で策定した継続支援計画案をもとに、関係者間で計画内容についての協議を行い、計画案の修正を必要に応じ行ったうえで、計画を完成させる。
- ・ここでの「関係者」としては、事業実施要綱において「対象者、児童相談所の子ども担当職員、里親、施設職員など対象者の支援に携わってきた者等」により会議を開催し、継続支援計画を策定することとされているため、原則これらの者との協議を行いつつ、必要に応じこれ以外の関係者にも協力を依頼することが必要である。また、決定までの経過の中で、本人にも計画内容を理解してもらう。
- ・協議内容を踏まえ、計画に記載すべき内容を定めるほか、関係者が対象者支援をどのような役割で行うか、明確化する。



⑤継続支援計画の進捗状況の確認、見直し

- ・目標達成の状況については、支援コーディネーターが関係者と定期的な協議の場を設けるなどして、関係者が情報を持ち寄り、共有することが重要である。必要があると認められた場合は、計画を適宜見直す。
- ・特に、就職（転職・離職）、就学（退学・卒業）、家族構成の変化等があった際は、これに伴う対象者の経済状況、居住場所、支援体制の変化等を踏まえ、計画の見直しについて検討する。

（２）「子ども家庭総合評価票 青年後期（１８歳到達以降）」を活用したアセスメント

ア「子ども家庭総合評価票 青年後期（１８歳到達以降）」について

- ◆前項の流れ「②自立支援に向けたアセスメントの実施」でも示すとおり、本ガイドラインでは自立支援において必要な情報を多角的にもれなく把握し、より適切なアセスメントを実現するための「子ども家庭総合評価票 青年後期（１８歳到達以降）」や「総括一覧シート」等のツールを用意している。
- ◆児童相談所などの相談機関におけるアセスメントは、面接法、行動観察法、各種検査法などを活用して、児童福祉司や児童心理司、医師、児童指導員などの専門職による様々な診断等の結果に基づきながら、原則として関係者の協議により行われてきた。この診断をさらに精度の高いものとし、現在及び将来にわたる子どもの自立支援に役立つものとするために、総合診断を補助する道具として作成したものが子ども家庭総合評価票である。
- ◆また、子ども家庭総合評価票による評価結果を一覧としてまとめたものが総括一覧シートである。具体的には、評価票の記載内容をシートに転記し、採点基準にしたがってスコアリングすることで、支援の必要度の判定や検討すべき課題の判断が可能となる。
- ◆子ども家庭総合評価票を作成することで、自立支援において必要な情報を網羅的に収集できるほか、これを基に作成した総括一覧シートに基づき、対象の青年自身および対象の青年の家庭、地域にどのような課題があるかを十分に把握することが可能である。その際には、総括一覧シートによって得られた結果が何を意味するのかを系統的に理解し、総合判断に活用することが大切である。

イ「子ども家庭総合評価票 青年後期（１８歳到達以降）」および「総括一覧シート」本体

別紙１～２のとおり。別紙１は「基本情報シート」、別紙２は「子ども家庭総合評価票」および「総括一覧シート」で構成される。

「基本情報」シートは、対象の青年に係る基本的事項を２ページにまとめたものである。子ども家庭総合評価票は、パートⅠ（青年）、パートⅡ（家庭）、パートⅢ（地域）の３つの部から構成されており、それぞれの分野・側面から対象の青年の状況を把握できるようにした。また、これらの記入方法等について、「記入のめやすと一覧表」を別紙３のとおり作成しているため、あわせて参考とされたい。

総括一覧シートは、対象の青年自身に関する課題として、①虐待的養育の可能性、②心身の発達状況における問題、③心身の健康状態に関する問題、④行動上の留意点、⑤人間関係上の問題、⑥生育歴上の問題、⑦自身の自立度の７つの課題、および家庭・地域社会に関する課題として、⑧家族機能に関する問題、⑨家庭の養育力に関する問題、⑩居住環境の問題、⑪地域の養育力の問題、⑫社会的資源上の問題の５つの課題を設定した。

（３）継続支援計画策定の実際

ア 様式

様式は別紙４のとおり。また、記入例は別紙５のとおりである。

なお、継続支援計画の策定にあたり、上記様式の活用を必須とするものではない点に留意されたい。（詳細は後述）

イ 策定にあたって

- ◆社会的養護自立支援事業実施要綱では、継続支援計画に、支援上の課題や課題解決のための支援目標、具体的な支援内容・方法などを定めると記載されている。こうしたことから、継続支援計画には、下記のような項目について検討し、その内容を掲載することが求められる。

項目	具体例
支援上の課題 (問題)	○対象の青年が自立支援上抱える、主たる（大きな）具体的な課題（問題） ○対象の青年本人の課題（問題）（良好な人間関係が構築できない、社会生活上のスキルが十分備わっていない状態、など） ○家庭・地域における課題（問題）（親や兄弟等からの不適切な関わりがある、など） ○上記を総合的にアセスメントした際に考えられる課題（問題）
課題解決のための 支援目標	○課題（問題）に対する短期的・長期的な支援目標 ○目標のうち、特に優先的に取り組むべきもの（優先順位の設定）
目標達成のための 具体的な支援内容・ 方法	○課題、目標に対応した支援の内容、実施頻度、関係者・専門職の役割 ○具体的な方法（生活・就労相談の実施方法など）
評価	○課題や目標の達成度・到達度 ○評価期日における評価内容の記載欄をあらかじめ設ける
その他	○対象の青年の自立に関する意向 ○養育者、関係者の意向 ○入所中の施設、里親等の意向、意見 ○総合的な支援方針 など

- ◆社会的養護自立支援事業における継続支援計画は、18歳到達後で施設を退所する者、措置解除となる者が対象となるが、18歳到達後にも措置延長により引き続き施設入所等を

継続する者については、元々策定されていたケアプラン（自立支援計画）を必要に応じて見直し、そのまま活用することとなる。継続支援計画の策定は、施設退所・措置解除時に改めて行うこととなるため、留意すること。

- ◆当ガイドラインは継続支援計画の策定を想定してまとめたものであるが、18歳未満の子どもを対象としたケアプラン（自立支援計画）の策定（見直し）にあたっては、記載内容を適宜参照されたい。

ウ 記入上のポイント

- ① 「本人の意向」及び「保護者の意向」には、本人や保護者がどのようなニーズを持ち、どのような支援・治療を望んでいるのかなどについて記入する。また、具体的な支援・治療ニーズ・内容・方法などについての要望がある場合には、その内容を記入すること。なお、本人と保護者との意向が異なる場合には、それが明確となるよう記入する。
- ② 「支援方針」については、アセスメントの結果や総合診断及び施設における支援状況から明らかになった支援ニーズに基づき到達したいと考えている内容や方向性などについて記入する。
※ 支援する側の視点で記入する。
- ③ ケースの状況によって異なるが、「長期目標」は概ね6ヶ月～1年程度で達成可能な目標を設定する。「短期目標」は概ね1～3ヶ月程度で達成したり進展するような目標を設定する。
「長期目標」を達成するためにより具体的な目標として「短期目標」を設定する。
- ④ 「その理由・背景」欄には、目標設定に至った本人の意向や置かれている社会的背景、アセスメント等を記入する。
- ⑤ 「支援上の課題（問題）」については、アセスメントから明らかになった優先的・重点的課題について、優先度の高いものから具体的に記入する。
- ⑥ 「支援目標」については、「支援方針」の内容を踏まえ、「支援上の課題（問題）」に対する具体的な支援目標を記入する。
- ⑦ 「支援内容・方法」については、支援目標を達成するための支援内容・方法について、回数や頻度などを含めできるだけ具体的に記入すること。
- ⑧ 「評価」については、計画策定者（支援コーディネーター等）が中心になって、職員による行動観察、評価票をはじめとした客観的評価、対象の青年本人の自己評価などの資料に基づき、達成状況などについて関係職員と検討の上、行う。なお、対象の青年も含めた計画策定を行うことから、この欄の記入内容については、簡潔でわかりやすいこととし、別紙（例：月間評価票などのようなもの）にその詳細な内容について記載するなどの工夫を凝らすことも必要である。
- ⑨ 特記事項欄には、関係機関との連携状況など特記すべき事項について記入する。
- ⑩ 必要な内容は、様式の枠にこだわらず、枠を広げるなど工夫して記入すること。

エ「子ども家庭総合評価票」等および継続支援計画などの様式の利用にあたって

- ◆アセスメントや継続支援計画の策定にあたっては、ここまでで示した子ども家庭総合評価票、継続支援計画の様式の活用が有効であるが、必ずしも評価票、様式の活用を必須とするものではない。
- ◆各地域でこれまで行われてきた自立支援の経過・背景や、用いられている様式等を踏まえ、例えば本ガイドラインの子ども家庭総合評価票や様式の項目を柔軟に既存のツールに取り入れたり、評価票・様式の一部を活用したアセスメント、計画立案を行うことも、場合によっては効率的で有用である。
- ◆支援コーディネーター等、自立支援に関わる専門職におかれては、本ガイドラインの趣旨、内容を理解しつつ、各地にあった柔軟な方法で、地域の自立支援を強力に推進することが真に重要なことと理解されたい。

【別紙】

1. 基本情報（フェースシート）
2. 子ども家庭総合評価票および総括一覧シート
3. 子ども家庭総合評価票記入のめやすと一覧表
4. 継続支援計画票
5. 継続支援計画票（記入例）

基本情報（フェースシート）

作成完了日	西暦（ ）年（ ）月（ ）日 担当者氏名： _____		
担当者職種	1. 児童福祉司 2. 児童心理司 3. 児童指導員 4. 保育士 5. 医師 6. 看護師 7. 保健師 8. その他 _____		
対象の子ども	氏名： _____ 生年月日：西暦（ ）年（ ）月（ ）日 年齢：満（ ）歳（ ）ヶ月 住所： _____ TEL： _____ 性別： 1. 男 2. 女 出生順位：子ども（ ）人中、第（ ）子 疾患・障害の有無： 1. あり 2. なし 長期の服薬の有無： 1. あり 2. なし アレルギーの有無： 1. あり 2. なし		
子どもの現在の 居住場所	1. 実父母の家庭 2. 実父母以外の親族家庭 3. 養子縁組家庭 4. 里親の家庭・ファミリーホーム 5. 施設 6. その他 _____		
同居家族	1. 実父 2. 養父 3. 1.と2.以外の父 4. 実母 5. 養母 6. 4.と5.以外の母 7. 子ども（対象の子どもを含めて（ ）人） 8. 祖父（父方・母方） 9. 祖母（父方・母方） 10. 内縁関係の男性 11. 内縁関係の女性 12. その他 _____		
養育者	●現在の「主たる養育者」は： 1. 実父 2. 実母 3. 養父 4. 養母 5. 1.と3.以外の父 6. 2.と4.以外の母 7. 祖父 8. 祖母 9. その他 _____ ●現在の「その他の養育者」は： 1. 実父 2. 実母 3. 養父 4. 養母 5. 1.と3.以外の父 6. 2.と4.以外の母 7. 祖父 8. 祖母 9. その他 _____		
ジェノグラム	めやす P.5 「ジェノグラムの書き方」(図1)を参考に記入する。	重要事項の 主な決定者	1) 家庭内で最も発言力が高いのは ()である 2) なにか困った問題が起こった時、最も頼りになる存在は ()である 3) 家族の中で大事なことは、最終的に ()が決め ている

子ども家庭総合評価票

青年後期

(18 歳到達後)

.....
No.

.....
対象者氏名

(歳)男・女

.....
記入者氏名

.....
所 属

.....

記入要領

「子ども家庭総合評価票」(以下、評価票)は、子どもの年齢に応じて、以下の5種類を用意しています。1ケースごとに1種類を選び、評価票に直接記入してください。

乳児期(0歳～2歳未満)

幼児期(2歳～就学前)

児童期(小学校1年生～4年生)

思春期(小学校5年生～中学3年生)

青年中期(中学卒～17歳)

青年後期(18歳到達以降)

特記事項の欄では、それぞれの項目について、印象や気になる点などを、自由にお書きください。

項目によっては、別冊の「子ども家庭総合評価票 記入のめやすと一覧表」(以下、めやす表)から該当する番号を選んで記入するものがあります。めやす表の該当ページは、評価票中に **めやす** P.00のように明記しています。

評価票は、以下の3つのパートに分かれています。

パートⅠ 子ども(青年中期・青年後期版は「青年」)

パートⅡ 家庭

パートⅢ 地域

評価票中の「主たる養育者」については、対象のお子さんの現在の家庭の中で養育を主に担当している方(父親、母親、祖父母など)をひとり選んでお答えください。主たる養育者に次いで養育にかかわっている方を「その他の養育者」としてお答えください。

各項目について、あてはまる番号や言葉に○印をつけます。また、()内に該当する数字や記号を記入してください。

現在施設に居住している対象のお子さんについても、家庭パート・地域パートではそれぞれ出自家庭(子どもが生まれた家庭)およびその居住地域のことにに関して、わかる範囲でお答えください。

情報収集はおこなわれたが、判断しかねた場合には「判断困難」としてください。

記入が終わりましたら、本評価票と同じ種類の「総括一覧シート」に得点を転記し、総合診断票に添付してください。「総括一覧シート」はケースのまとめや支援の課題設定の作業にご利用ください。

情報収集がおこなわれなかった項目については無記入のままにしてください。ただし、記入欄が  色になっている部分は、特に必要な項目ですので、できる限り記入をしてください。

パート I

青年

パート I では、ケースの基本情報と対象の青年の現在の発達・発育のようすや、生育史について見ていきます。各項目についての情報を収集し、支援への留意の必要度について評価します。

● I. 青年に関する事項 ●

基本情報	作成完了日	西暦（ ）年（ ）月（ ）日 担当者氏名： _____
	記入担当者の職種	1. 児童福祉司 2. 児童心理司 3. 児童指導員 4. 教師 5. 医師 6. 看護師 7. 保健師 8. その他 _____
	対象の青年	氏名： _____ 生年月日：西暦（ ）年（ ）月（ ）日 年齢：満（ ）歳（ ）ヶ月 住所： _____ TEL： _____ 性別： 1. 男 2. 女 出生順位：第（ ）子
	現在の居住場所	1. 実父母の家庭 2. 実父母以外の親族家庭 3. 養子縁組家庭 4. 里親の家庭・ファミリーホーム 5. 下宿・寮 6. 施設 7. 婚姻家族の家庭 8. 一人暮らし 9. その他 _____ 「1」～「5」の場合：同居家族は？ 1. 実父 2. 養父 3. 1. と2. 以外の父 4. 実母 5. 養母 6. 4. と5. 以外の母 7. 配偶者 8. 子ども（実子： 人、実子以外： 人） 9. 祖父（父方・母方） 10. 祖母（父方・母方） 11. 本人の同居人・内縁関係の人 12. その他 _____
	居住場所の生活必需品の有無	3. 生活必需品が揃わず、生活に影響している 2. 最低限の生活必需品が揃っている 1. 概ね、または十分な生活必需品が揃っている
	現在の教育機関	1. 公立高等学校（ ）年 2. 私立高等学校（ ）年 3. 高等専門学校（ ）年 4. 専門学校（ ）年 5. 短期大学（ ）年 6. 4年制大学（ ）年 7. 特別支援学校 8. 特別支援学級 9. 通級による指導 10. フリースクール 11. 未就学 12. その他 _____
	現在の就労状況	1. 正規就労（職種： ） 2. 非正規就労（職種： ） 3. 内職 4. 家事専念 5. アルバイト 6. 未就職 7. その他 _____
	最終学歴以降の就労状況	●現在：1. 就業中（就職して（ ）年（ ）ヵ月目） 2. 就活中 3. 未就活 ●転職：1. あり（辞職：（ ）回・解雇：（ ）回） 2. なし
	保有資格	1. 普通自動車免許 2. 原動機付自転車免許 3. その他 _____
	転居	対象者自身が転居した回数（ ）回
	婚姻状況	1. 婚姻中：（ ）歳時に結婚 2. 離別（婚姻：（ ）歳・離婚：（ ）歳） 3. 死別（婚姻：（ ）歳・死別：（ ）歳） 4. 婚姻・離別・死別なし

● I. 青年に関する事項 ●

基本情報	妊娠・出産状況	●妊娠経験：1. あり（ ）回（ ）歳・（ ）歳・（ ）歳 2. なし ●出産経験：1. あり（ ）回（ ）歳・（ ）歳・（ ）歳 2. なし
	保証人の有無	賃貸住宅や携帯電話等の各種契約、奨学金貸与時などの保証人になってくれる人がいるか 2. いる 1. いない 0. 判断困難
	主たる問題（主訴）	めやす P.6 「主たる問題（主訴）一覧」（表1）から該当する番号を選んで記入する（複数選択可）。 （ ）（ ）（ ）（ ）（ ）（ ）（ ）（ ） 主たる問題（主訴）が最初に問題となった時期： 西暦（ ）年（ ）月頃から 主たる問題（主訴）の深刻さ 4. 問題は深刻で、対象の青年の日常生活を大きく損なっている 3. 問題はやや深刻で、対象の青年の日常生活を部分的に損なっている 2. 問題はあるものの、対象の青年の日常生活への影響は軽微である 1. 問題はあるものの、対象の青年の日常生活への影響はない 0. 判断困難
	補導歴の有無	2. あり 1. なし →「あり」の場合、初発の年齢（ ）歳、直近の年齢（ ）歳
	非行・犯罪歴の有無	2. あり 1. なし →「あり」の場合、初発の年齢（ ）歳、直近の年齢（ ）歳
	主たる問題（主訴）に関する特記事項	特記事項の有無： 1. あり 2. なし 具体的に：
	種類	1. 相談 2. 通告 3. その他 _____
	相談・通告経路	1. 保護者（1-1. 父親 1-2. 母親） 2. 親族（祖父・祖母・その他： _____） 3. 学校 4. 勤務先 5. 保健所 6. 医療・保健機関 7. 警察 8. 近隣（具体的に： _____） 9. 児童委員 10. 保健センター 11. その他（具体的に： _____）
	相談受理日	受理： 西暦（ ）年（ ）月（ ）日
	過去の相談受理	1. なし（今回が初回） 2. あり（ありの場合、過去の受理日・機関を記載） 1回目：（ ）年（ ）月（ ）日 受理機関： _____ 2回目：（ ）年（ ）月（ ）日 受理機関： _____ 3回目：（ ）年（ ）月（ ）日 受理機関： _____ 4回目：（ ）年（ ）月（ ）日 受理機関： _____
評価票記載完了までの面談回数と対象	計（ ）回 情報源は？（複数選択可） 1. 父親 2. 母親 3. 祖父 4. 祖母 5. 祖父母以外の親戚（具体的に： _____） 6. 近隣（具体的に： _____） 7. 学校・職場関係者 8. その他（具体的に： _____）	

● I. 青年に関する事項 ●

基本情報	相談受理に関する 特記事項	特記事項の有無： 1. あり 2. なし 具体的に：
	出生時の 問題	出生時の問題 情報源は？： 1. 養育者 2. 母子健康手帳 3. 学校・職場 4. その他 妊娠・出産時に問題があった： 2. はい（具体的に： _____） 1. いいえ 0. 判断困難
生育史	教育・保育歴	教育・保育歴 幼稚園に通園： 2. はい（3年保育・2年保育） 1. いいえ 0. 判断困難 保育所に通所： 2. はい（ ）歳～（ ）歳まで 1. いいえ 0. 判断困難 小学校は年齢相当に終了： 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難 中学校は年齢相当に終了： 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難 高等学校は年齢相当に終了： 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難 専門学校は年齢相当に終了： 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難 特別支援学校等への通学歴： 2. あり 1. なし 0. 判断困難 特別支援学級等への通学歴： 2. あり 1. なし 0. 判断困難 通級による指導を受けた経歴： 2. あり 1. なし 0. 判断困難 過去の教育・保育歴中に大きな問題があった 2. はい （具体的に： _____） 1. いいえ 0. 判断困難
	既往歴	対象の青年の疾患既往の有無 2. はい→疾患・障害の種類：（ ）（ ）（ ）（ ） めやす P.8・9 種類は「主な身体疾患および身体障害の種類」（表7）および「主な子ども/青年の精神障害」（表8）から選択して該当する記号や番号を選んで記入する（複数選択可）。 1. いいえ 0. 判断困難 怪我・事故 これまでに大きな怪我をしたり事故にあった 2. はい（具体的に： 1. やけど 2. 墜落 3. 転倒 4. 交通事故 5. その他） 1. いいえ 0. 判断困難 家族の疾患・障害の有無 2. あり 1. なし 0. 判断困難 具体的に： 家族の誰か（ ） 疾患・障害名（ ）
	養育歴	離死別経験 実母とは： 1. 経験なし 2. 過去に別居経験あり 3. 別居中 4. 離別（離婚・失踪・その他） 5. 死別（病死・自殺・他殺・その他） 6. 母親不詳 実父とは： 1. 経験なし 2. 過去に別居経験あり 3. 別居中 4. 離別（離婚・失踪・その他） 5. 死別（病死・自殺・他殺・その他） 6. 父親不詳

● I. 青年に関する事項 ●

生育史	心的外傷体験	心的外傷体験の有無 2. ある 1. ない 0. 判断困難 ↓ 原因： 下記の中から該当するものに○をつける（複数選択可）。 1. 自然災害 2. 交通事故 3. 児童虐待 4. 性被害 5. 集団内でのいじめ・孤立 6. DV 7. その他犯罪_____ 8. その他_____
	生育史に関する特記事項	特記事項の有無 1. あり 2. なし 具体的に：
現在の心身の健康	身体発育	身長（ ）cm 体重（ ）kg 情報源は？： 1. 測定 2. 養育者 3. 学校/職場 4. その他 BMI 体重 (kg) ÷ 身長² (m) → 身長・体重からBMI (Body Mass Index) を算出し、以下を判断する。 1. やせ (18.5未満) 2. ふつう (18.5～24.9) 3. 肥満1度 (25.0～29.9) 4. 肥満2度 (30.0～34.9) 5. 肥満3度 (35.0～39.9) 6. 肥満4度 (40.0以上)
	栄養状態	めやす P.7「哺乳・摂食状況（食欲）」と〈留意点〉を参照する。 食欲： 4. 拒食状態 3. かなり不振 2. やや不振 1. 正常 0. 判断困難 偏食： 4. 異常な偏食 3. かなり偏食 2. やや偏食 1. なし 0. 判断困難 →自発的排出を伴う異常な過食行動の有無： 2. あり 1. なし 0. 判断困難
	生活状況（現在の状況）	起床時刻： 4. 不規則 3. やや不規則 2. やや規則的 1. 規則的 0. 判断困難 就寝時刻： 4. 不規則 3. やや不規則 2. やや規則的 1. 規則的 0. 判断困難 学校（勤務先）への登校（出勤）状況： 4. 全く登校/出勤していない 3. 不登校/欠勤の日が多い 2. ときどき不登校/欠勤 1. 登校/出勤している 0. 判断困難
	アレルギーの有無	食物アレルギー： 2. あり 1. なし ありの場合具体的な食品： _____ その他アレルギー：2. あり 1. なし ありの場合具体的なアレルゲン： _____
	不自然な身体損傷	不自然なあざ、やけど、傷などの有無 4. 新旧の不自然なあざや傷が10ヶ所以上ある 3. 5～9ヶ所ある 2. 1～4ヶ所ある 1. なし 0. 判断困難
	不自然な身体損傷に関する特記事項	特記事項の有無： 1. あり 2. なし 具体的に：

● I. 青年に関する事項 ●

現在の心身の健康	疾患・障害	身体疾患・障害の有無 情報源は？： 1. 診察 2. 養育者 3. 学校/職場 4. その他 4. 確定診断あり 3. 疑いあり 2. やや疑いあり 1. 疑いなし 0. 判断困難 めやす P.8 種類は「主な身体疾患および身体障害の種類」（表7）から該当する記号を選んで記入する（複数選択可）。 種類（ ）（ ）（ ）（ ） その他 _____
		身体障害の認定（手帳の交付など） 4. 認定を受けている →いつ？： （ ）歳（ ）ヶ月時 →等級は？： （ ）級 3. 申請中 2. 受けていない 1. 身体障害なし 0. 判断困難
		身体疾患・障害の治療 4. 未受診 3. 受診したが中断している（完治していない） 2. 治療中 1. 身体疾患・障害なし 0. 判断困難 →治療中の場合、受診頻度（ ） →主な処方薬（ ）
		知的障害の有無 情報源は？： 1. 診察 2. 養育者 3. その他 4. 確定診断あり 3. 疑いあり 2. やや疑いあり 1. 疑いなし 0. 判断困難
		知的障害の認定（手帳の交付など） 4. 認定を受けている →いつ？： （ ）歳（ ）ヶ月時 →等級は？： （ ）級 3. 申請中 2. 受けていない 1. 知的障害なし 0. 判断困難
		知的障害のための療育 4. 受けていない 3. 受けていたが中断した 2. 療育中 1. 知的障害なし 0. 判断困難
		精神障害の有無 情報源は？： 1. 診察 2. 養育者 3. 学校/職場 4. その他 4. 確定診断あり 3. 疑いあり 2. やや疑いあり 1. 疑いなし 0. 判断困難 めやす P.9 種類は「主な子ども/青年の精神障害」（表8）から該当する番号を選んで記入する（複数選択可）。 種類（ ）（ ）（ ）（ ） その他 _____
		精神障害の認定（手帳の交付など） 4. 認定を受けている →いつ？： （ ）歳（ ）ヶ月時 →等級は？： （ ）級 3. 申請中 2. 受けていない 1. 精神障害なし 0. 判断困難
		精神障害の治療 4. 未受診 3. 受診したが中断している（完治していない） 2. 治療中 1. 精神障害なし 0. 判断困難 →治療中の場合、受診頻度（ ） →主な処方薬（ ）

● I. 青年に関する事項 ●

現在の心身の健康	障害福祉サービス等の利用の有無	障害者総合支援法における障害福祉サービス等の利用 2. 利用している 1. 利用していない 0. 判断困難 →利用している場合、障害支援区分 1. 非該当 2. 区分1 3. 区分2 4. 区分3 5. 区分4 6. 区分5 7. 区分6 →利用している場合、実際に利用しているサービス 1. 居宅介護 2. 重度訪問介護 3. 同行援護 4. 行動援護 5. 重度障害者等包括支援 6. 短期入所 7. 療養介護 8. 生活介護 9. 施設入所支援 10. 共同生活援助 11. 自立訓練 12. 就労移行支援 13. 就労継続支援A型 14. 就労継続支援B型 15. 地域生活支援事業 16. その他_____
	疾患・障害に関する特記事項	特記事項の有無： 1. あり 2. なし 具体的に：
	情緒・行動上の問題	情緒・行動上の問題の有無 情報源は？： 1. 観察 2. 養育者 3. 本人 4. その他 4. 確かに問題あり 3. 疑いあり 2. やや疑いあり 1. 疑いなし 0. 判断困難 めやす P.10 種類は「情緒・行動上の問題リスト」（表9）から該当する番号を選んで記入する（複数選択可）。 種類（ ）（ ）（ ）（ ） その他 _____
	情緒・行動上の問題傾向	治療・相談の有無 4. 未受診・未相談 3. 他機関に受診・相談あり 2. 受診・相談したが今は治療・相談していない 1. 情緒・行動上の問題なし 0. 判断困難
	情緒・行動上の問題傾向	自閉症スペクトラム障害の徴候 情報源は？： 1. 診察 2. 養育者 3. 学校 4. その他 目立った言葉の遅れはないものの、人とコミュニケーションするときに、気持ちが通わないことがある 4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難 融通がきかず、ひとつのことにこだわり続ける 4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難 初めての場所・状況が極度に苦手な慣れることができない 4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難
	反社会的問題行動傾向	情報源は？： 1. 観察 2. 養育者 3. 本人 4. その他 カッとなったり、かんしゃくを起こしたりすることがある 4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難 他者とけんかをしたり、いじめたりする 4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難 うそをついたり、ごまかしたりする 4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難

● I. 青年に関する事項 ●

現在の心身の健康	情緒・行動上の問題	注意欠如・多動性障害	情報源は？： 1. 観察 2. 養育者 3. 本人 4. その他
		すぐに気が散りやすく、注意を集中できない	
		4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難	
		落ち着きがなく、長い間じっとしてられない	
		4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難	
		いつもそわそわしたり、もじもじしている	
		4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難	
		抑うつ傾向	情報源は？： 1. 観察 2. 養育者 3. 本人 4. その他
		ほとんど一日中、いらいらしたりふさぎこんだりしている	
		4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難	
食事が楽しめず、食欲もない			
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難			
生きていてもしかたがない、死にたいなどと言う			
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難			
アルコール、タバコ、薬物使用			
情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他			
飲酒をしている（1週間に2回以上）			
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難			
喫煙をしている（毎日数本以上）			
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難			
薬物（シンナー、麻薬、覚醒剤など）を使用したことがある			
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難			
ギャンブル、ネットゲーム依存	情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他		
パチンコや競馬、競輪などのギャンブルにとらわれ過ぎていて、どうしても止めることができない			
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難			
パチンコや競馬、競輪などのギャンブルにお金を使い過ぎて経済的な困難に陥ることがある			
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難			
ネットゲームをしている時間が長過ぎて、学業や仕事に支障をきたす			
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難			
ネットゲームをすることを最優先にしている、日常生活に問題が起きてもゲームを止めることができない			
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難			
登校・出勤困難	情報源は？： 1. 養育者 2. 本人 3. その他		
病気や家庭の事情ではないのに学校や職場を休む			
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難			
学校や職場のことを考えただけで緊張することがある（ようだ）			
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難			
登校・出勤時に頭痛、腹痛、気持ち悪さなどを訴える			
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難			

● I. 青年に関する事項 ●

現在の心身の健康	情緒・行動上の問題	学校・職場での孤立感 情報源は？： 1. 養育者 2. 本人 3. その他 学校や職場でいじめられている（ようだ） 4. はい 3. ややはい 2. ややいいえ 1. いいえ 0. 判断困難 クラスや職場のみんなに馬鹿にされないか気にしている（ようだ） 4. はい 3. ややはい 2. ややいいえ 1. いいえ 0. 判断困難 学校や職場でみんなから嫌われている気がしている（ようだ） 4. はい 3. ややはい 2. ややいいえ 1. いいえ 0. 判断困難										
		本人の家庭内での暴力 情報源は？： 1. 養育者 2. 本人 3. その他 4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難 →誰に： 1. 父親 2. 母親 3. 配偶者 4. 子ども 5. きょうだい 6. 祖父 7. 祖母 8. その他 _____										
		自傷的行動 情報源は？： 1. 観察 2. 養育者 3. 本人 4. その他 4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難 →具体的に： 1. 抜毛 2. 頭を壁に打ち付ける 3. 腕や手噛み、つねり 4. リストカット 5. その他 _____										
		社会的引きこもり 情報源は？： 1. 観察 2. 養育者 3. 本人 4. その他 部屋や自宅を出ることができず、社会的活動に参加していない 4. 6ヶ月以上続いている：（ ）年（ ）ヶ月程度 3. 1～5ヶ月続いている 2. 1ヶ月未満の継続 1. 全くない 0. 判断困難										
		自己概念と自己評価 情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>やや</td> <td>やや</td> <td></td> <td>判断</td> </tr> <tr> <td></td> <td>いいえ</td> <td>いいえ</td> <td>はい</td> <td>困難</td> </tr> </table> 1) 今のままの自分に満足している（ようだ）…………… 4………… 3………… 2………… 1………… 0 2) 自分の顔やスタイルが好きで、満足している（ようだ）…………… 4………… 3………… 2………… 1………… 0 3) まわりのみんなと同じくらいかそれ以上に頭がいいと思っている（ようだ）…………… 4………… 3………… 2………… 1………… 0		やや	やや		判断		いいえ	いいえ	はい	困難
	やや	やや		判断								
	いいえ	いいえ	はい	困難								
発達的特徴	アイデンティティの発達	性同一性、受容感 情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他 自分の性と反対の性別（男性は女性、女性は男性）の意識や行動を示している 4. はい 3. ややはい 2. ややいいえ 1. いいえ 0. 判断困難 「自分の性と反対の性別（男性は女性、女性は男性）に生まれたかった」と思っている 4. はい 3. ややはい 2. ややいいえ 1. いいえ 0. 判断困難										
		自己制御性（自己志向性） 情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>やや</td> <td>やや</td> <td></td> <td>判断</td> </tr> <tr> <td></td> <td>いいえ</td> <td>いいえ</td> <td>はい</td> <td>困難</td> </tr> </table> 1) 目標を持って勉強したり練習することができる…………… 4………… 3………… 2………… 1………… 0 2) 約束を守ることができる…………… 4………… 3………… 2………… 1………… 0 3) これからすること（余暇、勉強、読書など）を自分で選べる…………… 4………… 3………… 2………… 1………… 0		やや	やや		判断		いいえ	いいえ	はい	困難
			やや	やや		判断						
	いいえ	いいえ	はい	困難								

● I. 青年に関する事項 ●

発達的特徴	アイデンティティの発達	自己同一性探求の志向性とその達成										
		情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他			やや いいえ	やや いいえ	やや はい	やや はい	判断 困難			
		1) 今、自分の目標をなしとげるために努力している…………… 4…………3…………2…………1…………0										
		2) 自分がどんな人間なのか、何をしたいのかということ、 真剣に迷い、考えている…………… 4…………3…………2…………1…………0										
		3) 一所懸命に打ち込めるものを積極的に探し求めている…………… 4…………3…………2…………1…………0										
	他者との関係性の発達	共感性と協調行動										
		情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他			やや いいえ	やや いいえ	やや はい	やや はい	判断 困難			
		1) 自分からすすんでよく他人を手伝う…………… 4…………3…………2…………1…………0										
		2) 誰かが傷ついたり、怒っていたり、気分が悪い時など すすんで手をさしのべる…………… 4…………3…………2…………1…………0										
		3) 年少者たちに対してやさしい…………… 4…………3…………2…………1…………0										
他者との関係性の発達	養育者との関係											
	情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他			やや いいえ	やや いいえ	やや はい	やや はい	判断 困難				
	1) 養育者のことを信頼している…………… 4…………3…………2…………1…………0											
	2) 養育者から信頼されていると感じている…………… 4…………3…………2…………1…………0											
	3) 養育者は自分の気持ちをわかってくれると思っている…………… 4…………3…………2…………1…………0											

● I. 青年に関する事項 ●

発達的特徴	他者との 関係性の発達	友だち・同僚との関係										
		情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他			やや いいえ	やや いいえ	やや はい	やや はい	判断 困難			
		1) 仲の良い友だち/同僚が少なくとも一人はいる…………… 4…………3…………2…………1…………0										
		2) 他の青年から、だいたいは好かれているようだ…………… 4…………3…………2…………1…………0										
		3) 他の青年からいじめの対象にされたりしていない…………… 4…………3…………2…………1…………0										
		4) いつも一緒にいる友だち/同僚のグループがある										
		2. あり 1. なし										
		→ありの場合										
					やや はい	やや はい	やや いいえ	やや いいえ	判断 困難			
		5) 対象の青年がこのグループの仲間たちといるときは心配になる 4…………3…………2…………1…………0										
6) このグループの何人かは対象の青年に悪い影響を与えている… 4…………3…………2…………1…………0												
7) このグループのことは、大人が注意深く見守っていないといけない 4…………3…………2…………1…………0												
8) このグループはよく問題を起こす…………… 4…………3…………2…………1…………0												
		親友の有無と関係										
		情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他										
		“親友”と思える友だちがいる										
		2. はい () 人くらい 1. いいえ 0. 判断困難										
		恋人の有無と関係										
		情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他										
		“恋人”と付き合っている										
		2. はい 1. いいえ 0. 判断困難										
		他者とのつながり 下記の中から該当するものに○をつける（複数選択可）。										
		3. 携帯電話を所持・使用している 2. SNSを利用している										
		1. 携帯電話やSNSを利用していない 0. 判断困難										
		(SNSの例：LINE、フェイスブック、インスタグラム等)										
		教師・上司との関係										
		情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他			やや いいえ	やや いいえ	やや はい	やや はい	判断 困難			
		1) 困ったことがあると教師や上司を頼り、相談する…………… 4…………3…………2…………1…………0										
		2) 教師や上司のことを信頼している…………… 4…………3…………2…………1…………0										
		3) 教師や上司から信頼されていると感じている…………… 4…………3…………2…………1…………0										
		居住地域の自治体・町内会、消防団・青年団、まちづくりのための活動（道路や公園の清掃等）などの地域の活動										
		3. 対象の青年はそれらに参加したことがない										
		2. 対象の青年はそれらに参加したことがある										
		1. 対象の青年はそれらに活発に参加している										
		具体的に： _____										
		0. 判断困難										
		市民性（シティズンシップ）の発達										

● I. 青年に関する事項 ●

発達の特徴	市民性（シティズンシップ）の発達	社会や政治、時事問題への関心 世界や社会の出来事や動向に興味や関心があり、よく話をしている 4. 全くあてはまらない 3. あまりあてはまらない 2. ややあてはまる 1. あてはまる 政治や時事問題に関する情報を収集するために、テレビやラジオ、インターネットのニュースを見たり、新聞を読んだりする 4. 全くしない 3. あまりしない 2. 時々する 1. よくする 自然や環境を守る活動や老人・子どもなどを守る活動、災害被害者の救援活動など、地球や自然あるいは他者のためになる活動に関心がある 4. 全くあてはまらない 3. あまりあてはまらない 2. ややあてはまる 1. あてはまる 選挙の投票 4. 一度も行っていない 3. たまに行く 2. 行かないときもある 1. 毎回行く
	知的能力の発達	知的発達検査の実施 使用検査尺度：下記の中から該当するものに○をつける（複数選択可）。 1. WPPSI →いつ？：（ ）歳時 トータルIQ（ ）： 言語性IQ（ ）： 動作性IQ（ ） 2. WISC-IV →いつ？：（ ）歳時 トータルIQ（ ）： 言語理解指標（ ）： 知覚推理指標（ ）： ワーキングメモリ指標（ ）： 処理速度指標（ ） 3. 田中ビネー知能検査Ⅴ →いつ？：（ ）歳時 知能指数（ ）： 精神年齢（ ）： 生活年齢（ ） 4. KABC-II →いつ？：（ ）歳時 長期記憶と検索尺度（ ）： 短期記憶尺度（ ）： 視覚処理尺度（ ）： 流動性推理尺度（ ）： 結晶性能力尺度（ ）： 量的知識尺度（ ）： 読み書き尺度（ ） 5. その他 _____ →いつ？：（ ）歳時 結果 _____
	問題解決能力・意欲	知的な意欲（探究心） 情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他 興味を持ったことを時間をかけていろいろと調べる 4. 全くない 3. あまりない 2. 時々ある 1. よくある 0. 判断困難 わからないことはよく人に聞いたり辞書や辞典で調べたりする 4. 全くない 3. あまりない 2. 時々ある 1. よくある 0. 判断困難 頭を使う困難な課題を解くことに満足感をおぼえる 4. いいえ 3. ややいいえ 2. ややはいい 1. はい 0. 判断困難 仕事に必要な知識や技術を積極的に習得しようとしている（最終学歴終了後） 4. いいえ 3. ややいいえ 2. ややはいい 1. はい 0. 判断困難
	日常生活能力の発達	身辺自立の程度 めやす P.13 発達検査、「日常生活能力の発達めやす表」（表10）から判断する。 4. 遅れている 3. やや遅れている 2. 年齢相当 1. 年齢以上 0. 判断困難
	本人の金銭管理	3. できておらず、日常生活に支障がある 2. 日常生活に大きな支障はない 1. 問題ない

● I. 青年に関する事項 ●

発達の特徴	近隣コミュニケーション	日常的に利用している公共交通機関・交通手段 該当するものすべてに○をつける。 1. バス 2. 電車 3. 自転車 4. 原動機付自転車 5. パイク 6. 自動車（自分で運転） 7. その他（具体的に： ）
	社会的規範意識の発達	道徳的規範意識 情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. その他 他人に迷惑をかけてしまった時、『相手に悪いことをした』と悔やむことが多い 4. いいえ 3. ややいいえ 2. ややはい 1. はい 0. 判断困難 もしも警察につかまったら、恥ずかしくて世の中に顔向けができないと考えている 4. いいえ 3. ややいいえ 2. ややはい 1. はい 0. 判断困難 人に怒られなければなにをやってもかまわない、と考えている 4. はい 3. ややはい 2. ややいいえ 1. いいえ 0. 判断困難
	発達課題の達成状況	対象の青年の発達課題の達成状況 めやす▶ P.13「発達課題」（表11）から判断する。 4. 過去も現在も達成していない 3. 現在は達成しているように見えるが、過去に未達成のものがある 2. 過去は達成したが、現在はまだ達成していない 1. 過去も現在も達成している 0. 判断困難
発達の特徴	行動特徴	対象の青年の行動特徴全般について 情報源は？： 1. 観察 2. 養育者 3. 本人 4. その他
		人見知り傾向 1) 恥ずかしがりやなので人に会うのを嫌がる 2) 知らない人の前では恥ずかしがる 3) 同年齢の仲間に初めて会った時、恥ずかしがる
		持続・集中性 1) 何事も一所懸命に取り組む 2) やり始めたことは最後までやる 3) なんでもきちんと正確にやりたがる
		不安傾向 1) 新しいことをする時には不安がる 2) 悪いことが起こるのではないかとよく心配する 3) こわがりなので何事も慎重に取り組む

● I . 青年に関する事項 ●

発達 的特 徴	行動特徴に 関する特記事項	特記事項の有無： 1. あり 2. なし 具体的に：
	対象の青年の 好きな活動	対象の青年の好きな活動 情報源は？： 1. 本人 2. 養育者 3. 教師 4. その他 めやす P.14「子ども/青年の好きな活動リスト」（表12）から該当する番号を選んで記入する （複数選択可）。 現在、1番目に好きな活動 （ ） → いつから （ ） 歳 （ ） ヶ月から いいえ やや いいえ やや はい はい 判断 1) この活動に頑張って取り組んでいる 4..... 3..... 2..... 1..... 0 困難 2) この活動がだんだん上手になっている 4..... 3..... 2..... 1..... 0 現在、2番目に好きな活動 （ ） → いつから （ ） 歳 （ ） ヶ月から 1) この活動に頑張って取り組んでいる 4..... 3..... 2..... 1..... 0 2) この活動がだんだん上手になっている 4..... 3..... 2..... 1..... 0 現在の他の好きな活動 () () () () () 過去好きだった活動 () () () () ()

● I . 青年に関する事項 ●

パートⅡ

家庭

パートⅡでは、対象の青年の出自家庭の状況や家族関係、またこれまでの家族歴について実態把握・評価します。各項目についての情報を収集し、支援への留意の必要度について評価します。

● II. 家庭に関する事項 ●

【出自家庭（原家庭）版】対象の青年が生まれた家庭の状況等を記載

※対象の青年が配偶者等と設けている家庭については、後ろにある【婚姻（内縁含む）家庭版】に状況を記載します。

基本事項	家計の担当者	
	就労（生計の確保）に関わっているのは？：	
	1. 本人 2. 実父 3. 実母 4. 養父 5. 養母 6. 2.と4.以外の父 7. 3.と5.以外の母 8. 配偶者 9. 本人の同居人・内縁関係の人 10. 父方の祖父 11. 父方の祖母 12. 母方の祖父 13. 母方の祖母 14. 生活保護を受けている 15. その他（ ） 0. 判断困難	
◆以下の「主たる養育者」は、出自家庭の中で対象の青年の世話を主として担当している（していた）人を指します。		
家族の心身の健康	主たる養育者の精神障害	精神障害 情報源は？： 1. 対象の青年 2. 養育者本人 3. 診察 4. その他 3. 確定診断あり 2. 疑いあり 1. 疑いなし 0. 判断困難 （具体的に： ）
		現在の通院の有無 2. あり 1. なし 0. 判断困難
		精神障害による入院経験 ●対象の青年が生まれて以降 3. 1ヶ月以上の長期入院があった 2. 1ヶ月未満の短期入院があった 1. 入院なし 0. 判断困難
		●現在の入院 3. 1ヶ月以上の長期入院 2. 1ヶ月未満の短期入院 1. 入院なし 0. 判断困難
		精神障害の認定（手帳の交付など） 4. 認定を受けている 3. 申請中 2. 必要と思われるが未認定 1. 精神障害なし 0. 判断困難
		精神障害によるこれまでの養育の困難度 3. 精神障害のために養育できない状態にある（あった） 2. 多少の困難はあるが養育はできている（できていた） 1. 養育については問題なし（なかった） 0. 判断困難

● II. 家庭に関する事項 ●

家族の心身の健康	家族の介護状況	介護が必要な家族 情報源は？： 1. 対象の青年 2. 養育者本人 3. 観察 4. その他 2. あり（ 人） 1. なし 0. 判断困難 →ありの場合は、以下も記載（3人以上の場合は、要介護度が重い2人までを記載） （1人目） 同居・別居の別 ： 2. 同居 1. 別居 要介護度： 7. 要介護5 6. 要介護4 5. 要介護3 4. 要介護2 3. 要介護1 2. 要支援2 1. 要支援1 0. 判定なし・未判定 利用している介護保険サービス： 1. 訪問介護 2. 訪問入浴介護 3. 訪問看護 4. 訪問（通所）リハビリテーション 5. 通所介護 6. 短期入所生活介護（ショートステイ） 7. 福祉用具貸与・購入、住宅改修 8. 施設サービス（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等） 9. その他_____ （2人目） 同居・別居の別 ： 2. 同居 1. 別居 要介護度： 7. 要介護5 6. 要介護4 5. 要介護3 4. 要介護2 3. 要介護1 2. 要支援2 1. 要支援1 0. 判定なし・未判定 利用している介護保険サービス： 1. 訪問介護 2. 訪問入浴介護 3. 訪問看護 4. 訪問（通所）リハビリテーション 5. 通所介護 6. 短期入所生活介護（ショートステイ） 7. 福祉用具貸与・購入、住宅改修 8. 施設サービス（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等） 9. その他_____																			
	家族の育児状況	育児が必要な家族（概ね就学前の乳幼児。誰が育児をしているかは問わない） 2. あり（ 人） 1. なし 0. 判断困難 →ありの場合は、乳幼児の年齢（年齢が小さい順に記載） 1人目：（ 歳） 2人目：（ 歳） 3人目（ 歳）																			
	主たる養育者の健康に関する問題	養育者の人格障害傾向 情報源は？： 1. 対象の青年 2. 養育者本人 3. 診察 4. その他 3. 確定診断あり 2. 疑いあり 1. 疑いなし 0. 判断困難 →具体的に：（ 1. 境界性 2. 反社会性 3. 回避性 4. その他） 養育者の抑うつ傾向 情報源は？： 1. 対象の青年 2. 養育者本人 3. 観察 4. その他 <table><tr><td></td><td>ややあてはまる</td><td>ややあてはまらない</td><td>あてはまらない</td><td>判断困難</td></tr><tr><td>1) 悲しみや空虚感のような落ち込んだ気分（抑うつ気分）がほとんど一日中あり、1週間以上にわたって続いている……………</td><td>4……………</td><td>3……………</td><td>2……………</td><td>1……………0</td></tr><tr><td>2) これまでに興味を持って取り組んでいた活動を含め、あらゆることに興味を失い、喜びを感じることができない状態が1週間以上にわたって続いている……………</td><td>4……………</td><td>3……………</td><td>2……………</td><td>1……………0</td></tr><tr><td>3) 自分を過度にだめだと思う気持ちや、自分を責めたりする気持ちが強く、それが1週間以上続いている……………</td><td>4……………</td><td>3……………</td><td>2……………</td><td>1……………0</td></tr></table>		ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	判断困難	1) 悲しみや空虚感のような落ち込んだ気分（抑うつ気分）がほとんど一日中あり、1週間以上にわたって続いている……………	4……………	3……………	2……………	1……………0	2) これまでに興味を持って取り組んでいた活動を含め、あらゆることに興味を失い、喜びを感じることができない状態が1週間以上にわたって続いている……………	4……………	3……………	2……………	1……………0	3) 自分を過度にだめだと思う気持ちや、自分を責めたりする気持ちが強く、それが1週間以上続いている……………	4……………	3……………	2……………
	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	判断困難																	
1) 悲しみや空虚感のような落ち込んだ気分（抑うつ気分）がほとんど一日中あり、1週間以上にわたって続いている……………	4……………	3……………	2……………	1……………0																	
2) これまでに興味を持って取り組んでいた活動を含め、あらゆることに興味を失い、喜びを感じることができない状態が1週間以上にわたって続いている……………	4……………	3……………	2……………	1……………0																	
3) 自分を過度にだめだと思う気持ちや、自分を責めたりする気持ちが強く、それが1週間以上続いている……………	4……………	3……………	2……………	1……………0																	

21

● II. 家庭に関する事項 ●

個々を大切に して信頼しあう	現在の 対象の青年と きょうだい等の 関係	対象の青年のきょうだい構成 対象の青年の上に： 兄（ ）人で、（ ）歳と（ ）歳と（ ）歳 姉（ ）人で、（ ）歳と（ ）歳と（ ）歳 対象の青年に下に： 弟（ ）人で、（ ）歳と（ ）歳と（ ）歳 妹（ ）人で、（ ）歳と（ ）歳と（ ）歳																									
	対象の青年ときょうだい等の関係 情報源は？： 1. 対象の青年 2. 養育者本人 3. 観察 4. その他 かわいがったりめんどうをみる、一緒に遊ぶなど仲が良いようだ 3. いいえ 2. ややいいえ 1. はい 0. 判断困難 対象の青年ときょうだいとの交流・協力が多くなされている 3. いいえ 2. ややいいえ 1. はい 0. 判断困難 対象の青年と養育者との交流・協力が多くなされている 3. いいえ 2. ややいいえ 1. はい 0. 判断困難 養育者はきょうだいに公平に接している 3. いいえ 2. ややいいえ 1. はい 0. 判断困難 ↓ 対象の青年に対して： （1. 偏愛している 2. 偏った憎しみを持っている） きょうだい間でぶつたりたたいたりする激しいケンカはほとんどない 3. いいえ 2. ややいいえ 1. はい 0. 判断困難 きょうだい間の不適切な関わり： 2. あり 1. なし 0. 判断困難 具体的に：																										
家庭内の関係性に 関する特記事項	特記事項の有無： 1. あり 2. なし 具体的に：																										
安心・調和を基盤 にして共に生きる	家庭内の関係の 安定性	家庭内のまとめり 情報源は？： 1. 対象の青年 2. 養育者本人 3. 観察 4. その他 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>やや いいえ</th> <th>いいえ</th> <th>はい</th> <th>判断 困難</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 家庭内みんなで一緒に何かをするのが好きだ……………</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2) 家族に何かあれば一致団結して解決しようと努力する……………</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>3) 家庭内はお互いによく助け合っている……………</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>4) 家庭は居心地が良く、家にいるとほっとできる……………</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> 主たる養育者の家庭重視度 情報源は？： 1. 対象の青年 2. 養育者本人 3. 観察 4. その他 ●主たる養育者は家庭のことを 3. 軽んじている 2. やや軽んじている 1. 大切にしている 0. 判断困難 ●その他の同居人は家庭のことを 3. 軽んじている 2. やや軽んじている 1. 大切にしている 0. 判断困難		やや いいえ	いいえ	はい	判断 困難	1) 家庭内みんなで一緒に何かをするのが好きだ……………	3	2	1	0	2) 家族に何かあれば一致団結して解決しようと努力する……………	3	2	1	0	3) 家庭内はお互いによく助け合っている……………	3	2	1	0	4) 家庭は居心地が良く、家にいるとほっとできる……………	3	2	1	0
		やや いいえ	いいえ	はい	判断 困難																						
1) 家庭内みんなで一緒に何かをするのが好きだ……………	3	2	1	0																							
2) 家族に何かあれば一致団結して解決しようと努力する……………	3	2	1	0																							
3) 家庭内はお互いによく助け合っている……………	3	2	1	0																							
4) 家庭は居心地が良く、家にいるとほっとできる……………	3	2	1	0																							

● II. 家庭に関する事項 ●

安心・調和を基盤にして共に生きる	家庭内の問題 解決機能	問題解決志向性（主たる問題（主訴）に関する家族の取り組みの姿勢） 情報源は？： 1. 対象の青年 2. 養育者本人 3. 観察 4. その他 家庭内メンバーの今回の主たる問題（主訴）に対する取り組みは 3. 弱い 2. やや弱い 1. しっかりしている 0. 判断困難 今回の主たる問題（主訴）について、少なくとも家庭内の成人メンバーは全員知っている 3. いいえ 2. ややいいえ 1. はい 0. 判断困難 今回の主たる問題（主訴）について、本人が家庭内の誰かと相談している 3. いいえ 2. ややいいえ 1. はい 0. 判断困難 →誰と？（複数選択可）： 1. 配偶者 2. 同居者・内縁関係の人 3. 実父 4. 実母 5. 義父 6. 義母 7. その他 _____
	基本的な生活を営める	住居
住居の清潔さ		住居の清潔さ・安全さ 情報源は？： 1. 対象の青年 2. 養育者本人 3. 観察 4. その他 やや 判断 いいえ いいえ はい 困難 1) 住居内の清潔が保たれている…………… 3 …… 2 …… 1 …… 0 2) 住居内は施設管理、火の用心、窓からの落下防止配慮などの安全管理ができて…………… 3 …… 2 …… 1 …… 0 3) 住居内は整理整頓されており、落ち着きがある…………… 3 …… 2 …… 1 …… 0 4) そうじや庭の手入れが行き届いている…………… 3 …… 2 …… 1 …… 0
家庭の社会・ 経済的状況		養育者の就労状況（最終学校以降の就労状況と、現在の職種を記入） →就労パターンと就労状況をそれぞれ下記から選択 ●就労パターン 1. 最終学校卒業後、ずっと常勤職を続けている 2. 最終学校卒業してから、アルバイトやパートなどの非常勤職を続けている 3. 一時仕事を辞めて家にいた時期があったが、今は常勤職についている 4. 一時仕事を辞めて家にいた時期があったが、今は非常勤職についている 5. 対象の青年が生まれてからも仕事をしていた時期があったが、今はしていない 6. 対象の青年が生まれてから一度も仕事についたことはない 7. 最終学校卒業後、一度も仕事についたことはない 8. その他 0. 判断困難 ●就労状況 1. 正規就労 2. 非正規就労 3. 内職 4. 家事専念 5. 無職 6. 学生 7. その他 0. 判断困難 →就労パターン（ ） 就労状況（ ）

● II. 家庭に関する事項 ●

基本的な生活を営める	家庭の社会・ 経済的状況	経済的状態 3. 生活保護世帯 2. 非課税世帯 1. 課税世帯 0. 判断困難
		家賃の支払い 3. たびたび滞納する 2. たまに滞納する 1. 滞納することはない 0. 家賃が生じていない
	家庭の社会・ 経済的状況に 関する特記事項	特記事項の有無： 1. あり 2. なし 具体的に：
		主たる養育者の温かい関わり 情報源は？： 1. 対象の青年 2. 養育者本人 3. 観察 4. その他 やや 判断 いいえ いいえ はい 困難 1) 対象の青年が恐れたり、不安がっているときにはやさしく なぐさめている…………… 3…… 2…… 1…… 0 2) 対象の青年の発言や態度から、対象の青年の意図や気持ちを察しようと している…………… 3…… 2…… 1…… 0 3) 対象の青年の活動や働きかけに注意を向け、ていねいに応答している…………… 3…… 2…… 1…… 0
	養育機能	主たる養育者の過干渉：養育者の対象の青年に対するコントロール傾向 情報源は？： 1. 対象の青年 2. 養育者本人 3. 観察 4. その他 やや 判断 いいえ いいえ はい 困難 1) 対象の青年が発言中口出しせず耳を傾ける…………… 3…… 2…… 1…… 0 2) 対象の青年の自由を尊重している…………… 3…… 2…… 1…… 0 3) 対象の青年の行動に対し手出しせず自主性を尊重している…………… 3…… 2…… 1…… 0
		主たる養育者の不適切な養育行動 情報源は？： 1. 対象の青年 2. 養育者本人 3. 観察 4. その他 やや 判断 いいえ いいえ はい 困難 1) 対象の青年を乱暴につかんだりひっぱったりすることはない…………… 3…… 2…… 1…… 0 2) 対象の青年を無視したり、拒否したりすることはない…………… 3…… 2…… 1…… 0 3) 対象の青年を脅したり、対象の青年を侮辱するような言葉を浴びせることは ない…………… 3…… 2…… 1…… 0
		特記事項の有無： 1. あり 2. なし 具体的に：
養育機能に 関する 特記事項		
家庭の特徴	現在の家族の戸籍的関係 はい いいえ 判断 困難 1) 両親は法的に婚姻関係にある…………… 2…… 1…… 0 2) 対象の青年と血縁でないきょうだいと同居している…………… 2…… 1…… 0 （そのきょうだいは： 1. 父方の連れ子 2. 母方の連れ子 3. 養子）	
	養育者たちの出自家族との関係性 はい いいえ 判断 困難 1) 父方の祖父母は近隣に住んでいる…………… 2…… 1…… 0 2) 母方の祖父母は近隣に住んでいる…………… 2…… 1…… 0 3) 父方の祖父母との関係は良好である…………… 2…… 1…… 0 4) 母方の祖父母との関係は良好である…………… 2…… 1…… 0	

● II. 家庭に関する事項 ●

基本的な生活を営める	家庭史			
	年	対象の 青年の 年齢	同棲、法的結婚、別居、家出、離婚、再婚、退職、解雇、失業、再就職、誕生、大病、入院、死亡、自殺企図、触法行為、転居、一時保護、施設入所などの家庭内の主な出来事を、時系列で記述	
			対象の青年	主たる養育者・家庭の状況 (家族の誰かわかるように記載)
	家庭史に関する 特記事項		特記事項の有無： 1. あり 2. なし 具体的に：	

※対象の青年が生まれた出自家庭については、前にある【出自家庭（原家庭）版】に状況を記載します。

26

● II. 家庭に関する事項 ●

家族の心身の健康	家族の介護状況	（2人目） 同居・別居の別： 2. 同居 1. 別居 要介護度： 7. 要介護5 6. 要介護4 5. 要介護3 4. 要介護2 3. 要介護1 2. 要支援2 1. 要支援1 0. 判定なし・未判定 利用している介護保険サービス： 1. 訪問介護 2. 訪問入浴介護 3. 訪問看護 4. 訪問（通所）リハビリテーション 5. 通所介護 6. 短期入所生活介護（ショートステイ） 7. 福祉用具貸与・購入、住宅改修 8. 施設サービス（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等） 9. その他_____	
	家族の育児状況	育児が必要な家族（概ね就学前の乳幼児。誰が育児をしているかは問わない） 2. あり（ 人） 1. なし 0. 判断困難 →ありの場合は、乳幼児の年齢（年齢が小さい順に記載） 1人目：（ 歳） 2人目：（ 歳） 3人目：（ 歳）	
	配偶者（同居者・内縁関係の人）の健康に関する問題	配偶者等の人格障害傾向	情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他 3. 確定診断あり 2. 疑いあり 1. 疑いなし 0. 判断困難 →具体的に：（ 1. 境界性 2. 反社会性 3. 回避性 4. その他）
		配偶者等の抑うつ傾向	情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他 1) 悲しみや空虚感のような落ち込んだ気分（抑うつ気分）がほとんど一日中あり、1週間以上にわたって続いている…… 4…… 3…… 2…… 1…… 0 2) これまでに興味を持って取り組んでいた活動を含め、あらゆることに興味を失い、喜びを感じる事ができない状態が1週間以上にわたって続いている…… 4…… 3…… 2…… 1…… 0 3) 自分を過度にだめだと思う気持ちや、自分を責めたりする気持ちが強く、それが1週間以上続いている…… 4…… 3…… 2…… 1…… 0
配偶者等のアルコール乱用度		情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他 1) アルコールが入っている飲み物を1週間に4回以上飲む…… 4…… 3…… 2…… 1…… 0 2) 1回に飲む量はコップ10杯以上になることが多い…… 4…… 3…… 2…… 1…… 0 3) お酒のために仕事や家事ができないことがしばしばある…… 4…… 3…… 2…… 1…… 0	
配偶者等の薬物乱用		情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他 1) 薬物を乱用している…… 4…… 3…… 2…… 1…… 0 2) 薬物のために仕事や家事ができないことがしばしばある…… 4…… 3…… 2…… 1…… 0	

28

● II. 家庭に関する事項 ●

安心・調和を基盤にして共に生きる	家庭内の問題 解決機能	問題解決志向性（主たる問題（主訴）に関する家族の取り組みの姿勢） 情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他 家庭内メンバーの今回の主たる問題（主訴）に対する取り組みは 3. 弱い 2. やや弱い 1. しっかりしている 0. 判断困難 今回の主たる問題（主訴）について、少なくとも家庭内の成人メンバーは全員知っている 3. いいえ 2. ややいいえ 1. はい 0. 判断困難 今回の主たる問題（主訴）について、家庭内の誰かと相談している 3. いいえ 2. ややいいえ 1. はい 0. 判断困難 →誰と？（複数選択可）： 1. 配偶者 2. 同居者・内縁関係の人 3. 実父 4. 実母 5. 義父 6. 義母 7. その他 _____					
	基本的な生活を営める	住居	住居 1. 賃貸マンション（ ）階 2. 分譲マンション（ ）階 3. 公団賃貸 4. 公団分譲 5. 公営住宅 6. 民間アパート 7. 官舎・社宅 8. 一戸建て持ち家 9. 一戸建て借家 10. 対象の青年は施設内に居住中 11. その他 _____ 間取り（1DK, 2LDKなど） _____				
住居の清潔さ		住居の清潔さ・安全さ 情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>やや いいえ</td> <td>いいえ</td> <td>はい</td> <td>判断 困難</td> </tr> </table> 1) 住居内の清潔が保たれている…………… 3 …… 2 …… 1 …… 0 2) 住居内は施錠管理、火の用心、窓からの落下防止配慮などの安全管理ができている…………… 3 …… 2 …… 1 …… 0 3) 住居内は整理整頓されており、落ち着きがある…………… 3 …… 2 …… 1 …… 0 4) そうじや庭の手入れが行き届いている…………… 3 …… 2 …… 1 …… 0		やや いいえ	いいえ	はい	判断 困難
		やや いいえ	いいえ	はい	判断 困難		
家庭の社会・ 経済的状況	配偶者（同居者・内縁関係の人）の就労状況（最終学校以降の就労状況と、現在の職種を記入） →就労パターンと就労状況をそれぞれ下記から選択 ●就労パターン 1. 最終学校卒業後、ずっと常勤職を続けている 2. 最終学校卒業してから、アルバイトやパートなどの非常勤職を続けている 3. 一時仕事を辞めて家にいた時期があったが、今は常勤職についている 4. 一時仕事を辞めて家にいた時期があったが、今は非常勤職についている 5. 対象の青年が生まれてからも仕事をしていた時期があったが、今はしていない 6. 対象の青年が生まれてから一度も仕事についたことはない 7. 最終学校卒業後、一度も仕事についたことはない 8. その他 0. 判断困難 ●就労状況 1. 正規就労 2. 非正規就労 3. 内職 4. 家事専念 5. 無職 6. 学生 7. その他 0. 判断困難 →就労パターン（ ） 就労状況（ ）						

● II. 家庭に関する事項 ●

基本的な生活を営める	家庭の社会・経済的状況	経済的状態 3. 生活保護世帯 2. 非課税世帯 1. 課税世帯 0. 判断困難
	家庭の社会・経済的状況	家賃の支払い 3. たびたび滞納する 2. たまに滞納する 1. 滞納することはない 0. 家賃が生じていない
	家庭の社会・経済的状況に関する特記事項	特記事項の有無： 1. あり 2. なし 具体的に：
	妊娠中の生活 （対象の青年が妊娠中、もしくは妊娠中の配偶者（妻）がいる場合に記入）	妊娠週数 （ ） 週 情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他 妊娠中の子ども 1. 単胎 2. 双胎 3. 三胎以上 4. 不明 妊娠中の子どもについて 1. 初めての妊娠である 2. 妊娠中の子どもの上にきょうだいがいる →兄（ ）人で、（ ）歳・（ ）歳・（ ）歳・（ ）歳 →姉〔 〕人で、（ ）歳・（ ）歳・（ ）歳・（ ）歳 出産施設の予定 1. 開業医の産院 2. 総合病院・大学病院の産婦人科 3. 助産院 4. 自宅 5. 海外の病院・診療所など 6. まだ決めていない 7. その他（ ） 母子健康手帳 2. 取得していない 1. 取得した 0. 判断困難 里帰り出産 1. する予定（自分の実家・配偶者/パートナーの実家） 2. しない 3. まだ決めていない 子どものためのスペースの確保 3. 確保されていない 2. 確保されているが十分ではない 1. 確保されている
		妊娠中の妊婦の生活 情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他 1) 体重過多や栄養不足、妊娠中毒症の予防などの やや あて やや あて 判断 はまらない らない あてはまる はまる 困難 ためにバランスよい食生活を心がけている…………… 4…………… 3…………… 2…………… 1…………… 0 2) お酒を飲むことはない…………… 4…………… 3…………… 2…………… 1…………… 0 3) たばこを吸うことはない…………… 4…………… 3…………… 2…………… 1…………… 0 4) 育児書を読むなど、子育て情報を集めている…………… 4…………… 3…………… 2…………… 1…………… 0
妊婦健診 4. 一度も受診したことがない 3. ほとんど受診していない 2. 時々受診している 1. 毎回受診している		
地域や民間の団体が主催している妊娠や出産準備に関するプログラム（母親学級、学習会やセミナーなど） 2. 参加したことがない 1. 参加したことがある		

● II. 家庭に関する事項 ●

基本的な生活を営める	妊娠中の生活 （対象の青年が 妊娠中、もしくは 妊娠中の配偶者 （妻）がいる場合 に記入）	妊婦の情緒的状态	情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他						
				やや あて はまらない	あてはま らない	やや あてはまる	あて はまる	判断 困難	
		1) おなかの赤ちゃんの妊娠がわかったとき、うれしかった	4	3	2	1	0		
		2) 現在、妊娠していることがうれしい	4	3	2	1	0		
		3) 妊娠の経過が順調であると安心している	4	3	2	1	0		
		4) お産に不安はない	4	3	2	1	0		
		5) 母親になることに不安はない	4	3	2	1	0		
		6) おなかの赤ちゃんをいとおしく感じる	4	3	2	1	0		
		7) 孤独でさびしいと感じることはない	4	3	2	1	0		
		今回の妊娠の経緯	情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他						
		3. 望んではいなかったが、子どもができてしまった 2. 自然にまかせていた							
		1. 計画的に妊娠した							
		妊娠・出産や子育てについて、相談や話し合いをしたことがある人	情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他						
				1～2回は したこと はない	1～2回は したことが ある	時々 している	いつも している	判断 困難	
		1) 配偶者	4	3	2	1	0		
		2) 対象の青年の親	4	3	2	1	0		
		3) 対象の青年のきょうだいや親戚	4	3	2	1	0		
		4) 配偶者の親	4	3	2	1	0		
		5) 配偶者のきょうだいや親戚	4	3	2	1	0		
		6) 里親・施設職員	4	3	2	1	0		
		7) 対象の青年の友人・知人	4	3	2	1	0		
		8) 配偶者と共通の友人・知人	4	3	2	1	0		
		9) 子育てサークルの仲間	4	3	2	1	0		
		10) インターネットのメーリングリストなどの仲間	4	3	2	1	0		
		11) 保育士・幼稚園教諭	4	3	2	1	0		
		12) 産婦人科等の医師・看護師・助産師	4	3	2	1	0		
		13) 保健師	4	3	2	1	0		
		14) 市区町村・民間の子育てサービス窓口の人	4	3	2	1	0		
		対象の青年と配偶者等との関係	情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他						
				やや あて はまらない	あてはま らない	やや あてはまる	あて はまる	判断 困難	
		1) 対象の青年は配偶者等と幸せな結婚生活を 送っている	4	3	2	1	0		
		2) 対象の青年と配偶者等は、子育てについて よく話し合っている	4	3	2	1	0		
		3) 対象の青年と私と配偶者は、家事などの分担に関して お互いに助け合っている	4	3	2	1	0		

● II. 家庭に関する事項 ●

基本的な生活を営める	妊娠中の生活 （対象の青年が 妊娠中、もしくは 妊娠中の配偶者 （妻）がいる場合 に記入）	妊婦の、現在の仕事の有無			
		情報源は？： 1. 本人 2. 配偶者等 3. 観察 4. その他			
		1. 持っている 2. 持っていない			
		→持っている場合：職場での状況			
		1) 妊娠中の体調不良が原因で、仕事を休んだり、 遅刻・早退したりしたことがある……………	はい 3	いいえ 2	判断 困難 1
		2) 妊娠中の体調不良に関して、職場や上司・同僚は 仕事上の配慮をしてくれない……………	3	2	1
		3) つわりや切迫流産、切迫早産などで、一時期仕事を休んだことがある……………	3	2	1
		妊娠後、勤務時間の短縮や、フレックス勤務の利用			
		2. 利用していない 1. 利用している			
		対象の青年の職場の育児休業制度			
		2. ない 1. ある 0. 知らない			
		妊娠中の子どもの親について			
		4. 死別した 3. 離別した 2. 現在、別々に住んでいる（単身赴任、病氣入院など）			
		1. 現在、一緒に住んでいる			

● II. 家庭に関する事項 ●

基本的な生活を営める	家庭史（対象の青年が家庭を持つてからの経過を記載）		
	年	対象の 青年の 年齢	同棲、法的結婚、別居、家出、離婚、再婚、退職、解雇、失業、再就職、誕生、大病、入院、死亡、自殺企図、触法行為、転居、一時保護、施設入所などの家庭内の主な出来事を、時系列で記述
			対象の青年
	家庭史に関する 特記事項		特記事項の有無： 1. あり 2. なし 具体的に：

● II. 家庭に関する事項 ●

パートⅢ 地域

パートⅢでは、対象者や家庭をとりまく近隣や福祉・保健・教育関連施設、対象者自身の労働環境の状況と、対象者自身あるいは家庭とそれらとの関係性について調査します。対象者をとりまく社会的資源の状況についてチェックし、問題点の整理や活用可能な資源の探索に役立てます。各項目についての情報を収集し、支援への留意の必要度について評価します。

● Ⅲ. 地域に関する事項 ●

健全な生活環境を持つ地域社会	近隣コミュニケーション	対象家族（独居含む。以下同）の地域交流（近所付き合い） 4. 乏しい（孤立している） 3. やや乏しい 2. 時々交流している 1. 活発に交流 0. 判断困難
		対象家族の近隣トラブル 4. 近隣とトラブルを度々起こしている 3. 近隣とトラブルを時々起こしている 2. 以前トラブルがあったが今はない 1. 近隣とのトラブルはない 0. 判断困難 →トラブルの内容は 具体的に： _____
		対象者と同じ年頃の青年との交流 4. 近隣に青年がいなくて交流できない 3. いるが交流していない 2. 時々交流している 1. 活発に交流している 0. 判断困難
	居住地の状況	周辺環境に関する満足 いいえ やや やや はい 判断 いいえ はい 困難 1) 地域に対する愛着がある 4 3 2 1 0 2) 住みやすいまちだと思う 4 3 2 1 0
安全性（交通面） 4. 危険 3. やや危険 2. 比較的安全 1. 安全 0. 判断困難 安全性（防犯性） 4. 危険 3. やや危険 2. 比較的安全 1. 安全 0. 判断困難		
医療機関等（病院・診療所）、保健センターの有無と利用 歩いていける範囲（徒歩 20 分以内程度）に医療機関等がある 2. いいえ 1. はい 0. 判断困難 利用状況 ← 3. 対象者の家庭はそれらを利用したことがない 2. 対象者の家庭はそれらを利用したことがある 1. 対象者の家庭はそれらを頻繁に利用している 0. 判断困難		

● Ⅲ. 地域に関する事項 ●

健全な生活環境を持つ地域社会	文化的環境	居住地域の教育事業や学習機会、就労支援事業、子育て支援事業の有無と利用 地域に民間や市町村主催の公開講座、生涯学習講座などがある 2. いいえ 1. はい 0. 判断困難 利用状況 ← 3. 対象の青年はそれらに参加したことがない 2. 対象の青年はそれらに参加したことがある 1. 対象の青年はそれらに活発に参加している 具体的に： _____ 0. 判断困難																							
		地域に民間や市町村主催の就労支援のための講座などがある 2. いいえ 1. はい 0. 判断困難 利用状況 ← 3. 対象の青年はそれらに参加したことがない 2. 対象の青年はそれらに参加したことがある 1. 対象の青年はそれらに活発に参加している 具体的に： _____ 0. 判断困難																							
		地域にスポーツや趣味活動等のサークル、活動団体などがある 2. いいえ 1. はい 0. 判断困難 利用状況 ← 3. 対象の青年はそれらに参加したことがない 2. 対象の青年はそれらに参加したことがある 1. 対象の青年はそれらに活発に参加している 具体的に： _____ 0. 判断困難																							
労働・福祉・保健	自然環境	自然環境 歩いていける範囲（徒歩 20 分以内程度）に自然の豊かな場所や公園がある 2. いいえ 1. はい 0. 判断困難 利用状況 ← 3. 対象の青年はそれらを利用したことがない 2. 対象の青年はそれらを利用したことがある 1. 対象の青年はそれらを頻繁に利用している 0. 判断困難																							
	家庭外の教育施設 環境	現在通っている学校の環境の適切さ （就学中の場合：対象者本人に尋ねる） <table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>いいえ</th> <th>やや いいえ</th> <th>やや はい</th> <th>はい</th> <th>判断 困難</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 授業中クラスは静かで、落ち着いて勉強できる</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2) 自分たちの教室はいつもきれいになっていると思う</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>3) 今のクラスはまとまりがいいと思う</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		いいえ	やや いいえ	やや はい	はい	判断 困難	1) 授業中クラスは静かで、落ち着いて勉強できる	4	3	2	1	0	2) 自分たちの教室はいつもきれいになっていると思う	4	3	2	1	0	3) 今のクラスはまとまりがいいと思う	4	3	2	1
	いいえ	やや いいえ	やや はい	はい	判断 困難																				
1) 授業中クラスは静かで、落ち着いて勉強できる	4	3	2	1	0																				
2) 自分たちの教室はいつもきれいになっていると思う	4	3	2	1	0																				
3) 今のクラスはまとまりがいいと思う	4	3	2	1	0																				

● Ⅲ. 地域に関する事項 ●

関連施設（教育・労働・福祉・保健）	職場環境	現在の職場について (対象者本人に尋ねる)	いいえ	やや いいえ	やや はい	はい	判断 困難
		1) 今の仕事に満足している	4	3	2	1	0
		2) 働きやすい職場である	4	3	2	1	0
		3) 仕事と仕事以外の活動のバランスがとれている	4	3	2	1	0
		4) 働く場所が近くにある	4	3	2	1	0
地域の住みやすさ		<生活利便性>	いいえ	やや いいえ	やや はい	はい	判断 困難
		1) 公共交通機関が利用しやすい場所にある	4	3	2	1	0
		2) ショッピングセンターが近くにある	4	3	2	1	0
		3) 飲食店が近くにある	4	3	2	1	0
		<教育・文化>	いいえ	やや いいえ	やや はい	はい	判断 困難
		1) 学校・大学が近い	4	3	2	1	0
		2) 図書館などが近くにある	4	3	2	1	0
		<医療・福祉>	いいえ	やや いいえ	やや はい	はい	判断 困難
		1) 福祉が充実している（保育・高齢者施設等他分野を含む）	4	3	2	1	0
		2) 病院が近い	4	3	2	1	0
		<災害>	いいえ	やや いいえ	やや はい	はい	判断 困難
		1) 災害が少ない地域である	4	3	2	1	0
		<自然環境>	いいえ	やや いいえ	やや はい	はい	判断 困難
		1) 自然に多く触れられる（海の近く、山間部、温泉地 その他景勝地など	4	3	2	1	0
		年間平均気温（ ）℃					
<ライフスタイル>	いいえ	やや いいえ	やや はい	はい	判断 困難		
1) 地域で採れた食材が入手しやすい	4	3	2	1	0		
2) 治安が良い	4	3	2	1	0		
3) 地域の活動に多くの人が関わっている	4	3	2	1	0		

● Ⅲ. 地域に関する事項 ●

対象の青年へのソーシャル・サポート	サポートの資源	支援をしてくれる人の有無と見込み めやす P.19 「相談相手リスト」（表 15）から該当する番号を1つ選んで記入する。 現在支援をしてくれている人：（ ） 支援をしてくれそうな人（期待できる人）：（ ） 今までに支援をしてくれた人：（ ）
	サービスの活用状況	利用可能な主な子育てサービス・支援機関の有無と利用状況 （対象者本人に尋ねる） めやす P.19・20 「子ども・家庭に対する地域の支援機関リスト」（表 16）および「子育て関連事業リスト」（表 17）から該当する番号を選んで記入する（複数選択可）。 利用・参加経験あり（ ）（ ）（ ）（ ） 今後の利用・参加を希望するもの（ ）（ ）（ ）（ ）
		利用可能な主な就労支援サービス等の有無と利用状況 （対象者本人に尋ねる） めやす P.20 「就労支援関連事業リスト」（表 18）から該当する番号を選んで記入する（複数選択可）。 利用・参加経験あり（ ）（ ）（ ）（ ） 今後の利用・参加を希望するもの（ ）（ ）（ ）（ ）
		利用可能な主な生活支援サービス等の有無と利用状況 （対象者本人に尋ねる） めやす P.20 「生活支援関連事業リスト」（表 19）から該当する番号を選んで記入する（複数選択可）。 利用・参加経験あり（ ）（ ）（ ）（ ） 今後の利用・参加を希望するもの（ ）（ ）（ ）（ ）
		各種手当での利用状況 1. なし 2. あり →ありの場合：下記の中から該当するものに○をつける（複数選択可）。 1. 生活保護 2. 児童手当 3. 児童扶養手当 4. 特別児童扶養手当 5. 障害児福祉手当 6. 母子寡婦福祉貸付金 7. 施設退所児童等に対する就職・就学を促進するための生活福祉資金の貸付け 8. その他（具体的に： ）
居住地域に関する特記事項	特記事項の有無 1. 居住地域について 2. 学校環境について 3. 職場環境について 4. なし 具体的に：	

子ども家庭総合評価票

青年後期

(18歳到達以降)

総括一覧シート

本シートの目的

このシートでは、子ども家庭総合評価票で把握したケースの特徴や、支援への留意の必要度をまとめます。
採点の結果、留意の必要度が高い項目については、該当する検討課題を参照し、支援計画作成の参考にしてください。
詳しい記入の仕方は、裏面をごらんください。

No.

子ども氏名

(歳) 男・女

記入者氏名

所属

記入方法

粗点を記入する

子ども家庭総合評価票（以下、評価票）から得られた粗点（評価票で選んだ数字。項目によっては合計点を算出）を、総括一覧シートの「粗点」欄に転記してください。

※「0. 判断困難」とされた単項目、あるいは合計点を算出する項目で「0. 判断困難」を含む場合は、スコアリングの対象からはずします。この場合は、「粗点」欄に斜線を引いてください。

留意の必要度を記入する

粗点をとじ、各項目の「採点基準」に従って◎または○、それ以外の項目は斜線を、「留意の必要度」欄に記入してください。なお灰色になっているものは、採点をしない項目です。ただし、留意すべき検討課題が示されている項目もあります(下記の「シートの記入例」を参照)。

該当する検討課題を確認する

採点の結果、留意の必要度が高かった項目(◎＝必要度が大、○＝必要度が中)については、該当する検計課題を参照(シートの該当部分に「＊」マークがついています)、支援計画(作成の参考)にしてください。

評価票の記入例

「思春期版」を例にとって説明します。

○をつけた数字をそのまま粗点とする場合

情統・行動上の問題の有無 情報源は？：1. 診察 2. 養育者 3. 学校 4. その他

1. 疑いあり 2. やや疑いあり 3. 疑いなし 0. 判断困難

4. 確かに問題あり

※P.10 種類は「情統・行動上の問題リスト」(表9) から該当する番号を選んで記入する

種類 (4) (7) () ()

その他: _____

3 粗点

治養・相親の育養

1. 未受診・未相親

3. 他機関に受診・相親あり

4. 受診・相親したが今は治養・相親していない 1. 情統・行動上の問題なし 0. 判断困難

4 粗点

思春期版から抜粋

3項目の合計を粗点とする場合

自閉症スペクトラム障害の徴候

特徴画は？： 1. 診察 2. 検査者 3. 学校 4. その他

目立った言葉の遅れはないものの、人とコミュニケーションするときに、気持ちが変わらないことがある

1. よくある 2. あまりない 3. 時々ある 4. 全くない

顔色がきかず、ひとつのことにこだわり続ける

1. よくある 2. あまりない 3. 時々ある 4. 全くない

初めての場所・状況が極度に苦手で慣れることができない

1. よくある 2. あまりない 3. 時々ある 4. 全くない

粗点

4+4

思春期版から抜粋

シートへの記入例

[illegible]

●パートⅠ 青年 ● 青年後期 (18歳到達以降) 総括一覧シート

粗点 採点基準 留意の必要度

評価票 の 頁 目	実態把握・評価項目 黄色の項目は評価票に記入したものに同じ重要項目です。	粗 点 評価票で選択した 数字または合計点	採点基準 基準に就いて留意の必要度(欄)を○または△、それ以外は斜線を記入して下さい。 ★印は複数項目の合計点で採点、灰色の項目は無記入。	対象者自身に関する検討課題								家庭・地域の検討課題			
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
P189	居住場所の生活必需品の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	居住場所の生活必需品の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	保有資格			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	保有資格			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	婚姻状況			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
基本情報	婚姻状況			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	妊娠・出産状況			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	妊娠・出産状況			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	妊娠・出産状況			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	妊娠・出産状況			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
P190	保証人の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	保証人の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	保証人の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	保証人の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	保証人の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
P191	実親・実弟の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	実親・実弟の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	実親・実弟の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	実親・実弟の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	実親・実弟の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
P192	実親・実弟の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	実親・実弟の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	実親・実弟の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	実親・実弟の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源
	実親・実弟の有無			通常の養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源

●パートⅠ 青年

内記入ください。

青年後期 (18歳到達以降) 総括一覧シート

評価票 の 頁 目	実態把握・評価項目 黄色の項目は評価票に記入したものに同じ重要項目です。	粗 点 評価票で選択した 数字または合計点	採点基準 基準に就いて「留意の必要度」欄に○または△、それ以外は斜線を記入してください。 ★印は複数項目の合計点(複数点、灰色の項目は無記入)。	対象者自身に関する検討課題						家庭・地域の検討課題					
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
P193	発達・障害														
	身体疾患・障害の有無														
	身体障害の認定(手帳の交付など)														
	身体疾患・障害の治療														
	知的障害の有無														
P194	知的障害の認定(手帳の交付など)														
	知的障害のための療育														
	精神障害の有無														
	精神障害の認定(手帳の交付など)														
	精神障害の治療														
P195	障害福祉サービス等の利用の有無														
	障害者総合支援法における障害福祉サービス等の利用														
	情緒・行動上の問題の有無														
	情緒・相談の有無														
	治療・相談の有無														
P196	情報・行動上の問題傾向														
	自閉症スペクトラム障害の徴候														
	反社会的問題行動傾向														
	注意欠如・多動性障害														
	抑うつ傾向														
P197	アルコール、タバコ、薬物使用														
	ギャンブル、ネットゲーム依存														
	学校・出勤困難														
	情緒・行動上の問題														
	学校・職場での孤立感														
P198	本人の意思内での暴力														
	自衛的行動														
	社会的ひきこもり														
	アイデンティティの発達														
	自己概念と自己評価														
P199	性同一性・受容感														
	自己制御性(自己志向性)														
	自己同一性・志向性とその達成														
	職業意識の発達														
	他者との関係性の発達														
P200	共感性と協調行動														
	素直さと関係														
	友だち・同僚との関係														
	所属するグループの問題性														
	親友の有無と関係														
P201	恋人の有無と関係														
	他者とのつながり														
	教師・上司との関係														
	市民性(シチズンシップ)の発達														
	居住地域の自治体・町内会・消防団・青年団、まちづくりの活動(道路や公園の清掃等)などの地域の活動														
P202	社会や政治、時事問題への関心														
	知的能力の発達														
	使用検査尺度														
	問題解決能力・意欲														
	知的な意欲(探求心)														
P203	日常生活能力の発達														

粗点 採点基準 留意の必要度

評価項目の該当ページ	実態把握・評価項目 黄色の項目は評価期に入っていない重要項目です。	粗点 評価票で選択した数字または合計点	留意の必要度 ◎=大、○=中 △=小	対象者自身に関する検討課題										家庭・地域の検討課題			
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
P199	身辺自立の程度	4(選れている)は◎、3(やや選れている)は○	△	※								※					
	本人の金銭管理	3(できておらず、日常生活に支障がある)は○	△	※	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	※	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	
	近隣コミュニケーション		△		心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	※	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	
	日常的に利用している公共交通機関・交通手段	採点なし(1=バス、2=電車、3=自転車、4=原動機付自転車、5=バイク、6=自動車(自分で運転)、7=その他)	△	※	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	※	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	
P200	社会的規範意識の発達	★12~10(道徳的規範意識が低い)は◎、9~7(やや低い)は○	△	※	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	※	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	
	道徳的規範意識		△	※	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	※	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	
	発達課題の達成状況	4(過去も現在も達成していない)は◎、3(現在は達成しているが、過去に未達成のものがある)は○	△	※	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	※	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	
	対象者の発達課題の達成状況	4(過去も現在も達成していない)は◎、3(現在は達成しているが、過去に未達成のものがある)は○	△	※	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	※	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	
P201	対象者の行動特徴	★12~10(人見知り傾向大)は◎、9~7(傾向あり)は○	△	※	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	※	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	
	人見知り傾向	★12~10(集中性が低い)は◎、9~7(やや低い)は○	△	※	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	※	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	
	持続・集中性	★12~10(不安傾向大)は◎、9~7(傾向あり)は○	△	※	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	※	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	
	不安傾向	18(好きな活動は特になし)は○	△	※	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	※	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	

●パートⅡ 家庭 ● 青年後期 (18歳到達以降) 総括一覧シート

内記入ください。

実態把握・評価項目		粗点	採点基準	留意の必要度 ◎=大、○=中 斜線=小	対象者自身に関する検討課題												家庭・地域の検討課題											
黄色の項目は評価前に入力したものに同じ重要項目です。 ※印は複数項目の合計点で採点、灰色の項目は無記入。		評価項目で記載した 数字または合計点	基準に就いて「留意の必要度」欄に◎または○、それ以外は斜線を記入してください。 ★印は複数項目の合計点で採点、灰色の項目は無記入。		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12												
P203	出自家庭(原家庭)版																											
P203	基本事項																											
P203	家計の担当者																											
P203	主たる養育者の精神障害																											
P203	主たる養育者の精神障害																											
P203	現在の通院の有無																											
P203	精神障害による入院経験 対象の子どもの生まれて以降																											
P203	精神障害による入院経験 現在																											
P203	精神障害の認定(手帳の交付など)																											
P203	精神障害によるこれまでの養育の困難度																											
P203	家族の介護状況																											
P203	介護が必要な家族																											
P203	(1人目)同居、別居の別																											
P203	要介護度																											
P203	利用している介護保険サービス																											
P203	利用している介護保険サービス																											
P203	家族の育児状況																											
P203	育児が必要な家族(概ね就学前の乳幼児)																											
P203	乳幼児の年齢 1人目																											
P203	乳幼児の年齢 2人目																											
P203	乳幼児の年齢 3人目																											
P203	主たる養育者の健康に関する問題																											
P203	養育者の人格障害傾向																											
P203	抑うつ傾向																											
P203	アルコール乱用																											
P203	薬物乱用																											
P203	養育者の虐待を受けた経験の有無																											
P203	家庭内での暴力																											
P203	本人以外の家庭内での暴力																											
P203	家庭内の関係(2者関係)																											
P203	主たる養育者と、その配偶者(同居者・内縁関係の人)との関係																											
P203	対象者ときょうだいの関係																											
P203	対象の子どものきょうだい構成(合計人数)																											
P203	対象者ときょうだいの関係																											
P203	対象者ときょうだいの関係																											
P203	家庭内関係の安定性																											
P203	家庭内のまとまり																											
P203	主たる養育者の家庭重視度																											
P203	その他の同居人の家庭重視度																											
P203	家庭内の問題解決機能																											
P203	問題解決志向性																											
P203	主たる養育者の問題解決機能																											
P203	主たる養育者の問題解決機能																											

内に入力してください。

後年(18)達到陰陽一氣

評価結果 の担当 ページ	実態把握・評価項目	組 点	採点基準	留意の必要度 ◎＝大 〇＝中 斜線＝小	対象者自身に関する検討課題					家族・地域の検討課題							
					1 虐待被害の可能性	2 心身の発達状況	3 心身の健康状態	4 行動上の留意点	5 人間関係上の問題	6 生育歴上の問題	7 自身の自立度	8 家族機能	9 家族の養育力	10 居住環境	11 地域の養育力	12 社会的資源	
P207	住環境		基礎に凭って「留意」の必要項目に該当しない。それ以外は斜線を記入してください。 ★印は複数項目の合計点で採点。灰色の項目は無記入。														
	住居		採点なし(1=賃貸マンション、2=分譲マンション、3=公団賃貸、4=公団分譲、5=公営住宅、6=民間アパート、7=官舎・社宅、8=一戸建て持ち家、9=一戸建て借家、10=対象の青年は施設内に居住中、11=その他)														
	住居の清潔さ・安全さ		★12～10(清潔・安全ではない)は◎、9～7(やや清潔・安全ではない)は○	*	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	*	居住環境	地域の養育力	社会的資源			
	家族の社会・経済的状況		採点なし(1=生活保護世帯)、2(非生活保護世帯)は◎														
P208	経済的状況	/	3(たばこに溺れる)は◎、2(たばこに溺れる)は○										*				
	家族の支払い		★9～7(温かくない)は◎、6～4(やや温かくない)は○	*	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	*	居住環境	地域の養育力	社会的資源			
	主たる養育者の通い関わり		★9～7(通干渉である)は◎、6～4(やや通干渉である)は○	*	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	*	居住環境	地域の養育力	社会的資源			
	主たる養育者の不適切な養育行動		★9～7(不適切である)は◎、6～4(やや不適切である)は○	*	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	*	居住環境	地域の養育力	社会的資源			
P208	家族の特徴		1(両親は法的に婚姻関係にない)は○		心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	*	居住環境	地域の養育力	社会的資源			
	同居家族の戸籍的関係・面縁の婚姻関係		2(血縁でないきょうだいと同居している)は○														
	養育者の出自家族との関係性・父方の祖父母との関係		1(不良)は○														
	養育者の出自家族との関係性・母方の祖父母との関係		1(不良)は○														
P210	婚姻(内縁含む)・家庭版																
	基本事項																
	家族の担当者		採点なし(1=本人、2=養父、3=養母、4=養父、5=養母、6=2と4以外の父、7と3以外の母、8=配偶者、9=本人の同居人・内縁関係の人、10=父方の祖父、11=父方の祖母、12=母方の祖父、13=母方の祖母、14=生活保護を受けている、15=その他)														
	配偶者(同居者・内縁関係の人)の精神障害		3(確定診断あり)は◎、2(疑いあり)は○														
P210	配偶者等の精神障害		2(通院中)は○														
	現在の通院の有無		3(1ヶ月以上の長期入院)、2(1ヶ月未満)は○														
	精神障害による入院経験・対象の子供が生まれて以降		3(1ヶ月以上の長期入院)、2(1ヶ月未満)は○														
	精神障害による入院経験・現在		4(認定あり)、3(申請中)は○														
P210	家族の介護状況																
	介護が必要な家族		採点なし(2=あり、1=なし)														
	(1人目)同居・別居の別		採点なし(2=同居、1=別居)														
	要介護度		採点なし(7=要介護5、6=要介護4、5=要介護3、4=要介護2、3=要介護1、2=要支援2、1=要支援1)														
家族の心身の健康	利用している介護保険サービス		採点なし(1=訪問介護、2=訪問入浴介護、3=訪問看護、4=訪問(通所)リハビリテーション、5=通所介護、6=短期入所生活介護(ショートステイ)、7=福祉用具貸与・購入/住宅改修、8=施設サービス(特別養護老人ホーム・介護老人保健施設等)、9=その他)														
	(2人目)同居・別居の別		採点なし(7=要介護5、6=要介護4、5=要介護3、4=要介護2、3=要介護1、2=要支援2、1=要支援1)														
	要介護度		採点なし(7=要介護5、6=要介護4、5=要介護3、4=要介護2、3=要介護1、2=要支援2、1=要支援1)														
	利用している介護保険サービス		採点なし(1=訪問介護、2=訪問入浴介護、3=訪問看護、4=訪問(通所)リハビリテーション、5=通所介護、6=短期入所生活介護(ショートステイ)、7=福祉用具貸与・購入/住宅改修、8=施設サービス(特別養護老人ホーム・介護老人保健施設等)、9=その他)														
P211	家族の育児状況		採点なし(2=あり、1=なし)														
	育児が必要な家族(概ね就学前の乳幼児)		採点なし()歳														
	乳幼児の年齢	1人目	採点なし()歳														
	乳幼児の年齢	2人目	採点なし()歳														
P212	乳幼児の年齢	3人目	採点なし()歳														
	配偶者(同居者・内縁関係の人)の健康に関する問題		3(確定診断あり)は◎、2(疑いあり)は○														
	配偶者(同居者・内縁関係の人)の人格尊重傾向		★12～10(抑々傾向本)は◎、9～7(やや本)は○	*	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	*	居住環境	地域の養育力	社会的資源			
	抑うつ傾向		★12～10(抑々傾向本)は◎、9～7(やや本)は○	*	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	*	居住環境	地域の養育力	社会的資源			
P212	アルコール乱用度		★8～6は◎、5～4は○	*	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	*	居住環境	地域の養育力	社会的資源			
	薬物乱用		2(あり)は○	*	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	*	居住環境	地域の養育力	社会的資源			
	配偶者等の虐待を受けた経験の有無			*	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	*	居住環境	地域の養育力	社会的資源			
	家庭内での暴力		本人以外(家族内)での暴力	*	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	*	居住環境	地域の養育力	社会的資源			

項目 P212 P213 P214 P215 P216	実態把握・評価項目 黄色の項目は評価票に示したものと同じ重要項目です。	粗点 評価票で選択した 数字または合計点	採点基準 基準に従って留意の必要度・欄に○または△、それ以外は斜線を記入してください。 ★印は複数項目の合計点で採点。灰色の項目は無記入。	留意の必要度 ◎＝大 △＝中 斜線＝小	対象者自身に関する検討課題										家庭・地域の検討課題			
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
					身体的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
本人と配偶者（同居者・内縁関係の人）との関係			1)～3)を採点 ★9～7(不和傾向が大きい)は◎、6～4は○															
家庭内関係の安定性																		
家庭内のまとまり			★12～7は○															
配偶者（同居者・内縁関係の人）の家庭意識			3(軽んじている)、2(やや軽んじている)は○															
家庭内の問題解決機能																		
問題解決志向性 (主たる問題(主訴)に対する家族の取組の組みの姿勢)			★9～4は○															
住居																		
住居の清潔さ・安全さ			採点なし(1＝賃貸マンション、2＝分譲マンション、3＝公団賃貸、4＝公団分譲、5＝公営住宅、6＝民間アパート、7＝借家・社宅、8＝一戸建て持ち家、9＝一戸建て借家、10＝対象の子どもは施設内に居住中、11＝その他)															
家庭の社会・経済的地位			★12～10(清潔・安全ではない)は◎、9～7(やや清潔・安全ではない)は○															
経済的地位			採点なし															
家賃の支払い			3(生活保護世帯)、2(非課税世帯)は◎															
妊娠経過		/	採点なし															
妊娠経過			3(生活保護世帯)、2(非課税世帯)は◎															
妊娠経過			3(たまたま連続する)は◎、2(2人に連続する)は○															
妊娠経過		()週	採点なし															
妊娠経過			採点なし(1＝単胎、2＝双胎、3＝三胎以上)															
妊娠経過			採点なし(1＝初めての妊娠である、2＝上にきょうだいがいる)															
対象の子どものきょうだい構成(合計人数)		()人	採点なし															
出産施設の予定			採点なし(1＝開業医の産院、2＝総合病院・大学病院の産婦人科、3＝助産院、4＝自宅、5＝海外の病院・診療所など、6＝まだ決めていない、7＝その他)															
母子健康手帳の取得状況			2(取得していない)は○															
里帰り出産			採点なし(1＝する予定、2＝しない、3＝まだ決めていない)															
子どものためのスペースの確保			3(確保されていない)は○															
妊娠経過			★16～13は◎、12～9は○															
妊娠経過			4(一度も受診したことがない)は◎、3(ほとんど受診していない)は○															
地域や民間の団体が主催している妊娠や出産準備に関するプログラム			採点なし(2＝参加したことがない、1＝参加したことがある)															
妊娠経過			★28～22は◎、21～15は○															
妊娠経過			3(望んでいなかったが、子どもができてしまった)は○															
妊娠経過			★56～43は○															
妊娠経過			★12～10は◎、9～7は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															
妊娠経過			★9～7は◎、6～4は○															

対象者自身に関する検討課題	対象者自身に関する検討課題												留意の必要度 ◎=大、○=中 斜線=小	粗点	実態把握・評価項目 黄色の項目は評価期に入っていない重要項目です。 近隣コミュニケーション 対象家族(同居含む、以下同)の地域交流(近所付き合い) 対象家族の近隣トラブル 対象者と同じ年頃の青少年との交流 居住地の状況 周辺環境に関する満足 安全性(交通面) 安全性(防犯性) 文化的環境 地域に民間や市町村主催の公開講座、生涯学習講座などがある 地域に民間や市町村主催の就労支援のための講座などが 地域にスポーツや趣味活動等のサークル、活動団体等がある 自然環境 歩いていける範囲に自然の豊かな場所や公園がある 家庭外の教育施設 現在通っている学校の環境の適切さ 現在の職場について 地域の住みやすさ 地域の住みやすさ サポーターの資源 現在支援を受けている人 今までに育児の支援を受けてくれた人 子育てサービス、支援機関の利用、参加履歴あり(合計) 子育てサービス、支援機関の利用、参加履歴あり(合計) 就労支援サービス、支援機関の利用、参加履歴あり(合計) 就労支援サービス、支援機関の利用、参加履歴あり(合計) 生活支援サービス、支援機関の利用、参加履歴あり(合計) 生活支援サービス、支援機関の利用、参加履歴あり(合計) 各種手当ての利用状況(合計)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
1	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	自身の自立度	家族機能	家族の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

子ども家庭総合評価票

記入のめやすと一覧表

(全種類共通版)

Index

はじめに……4
本冊子の使い方……4

パートI 子ども/青年

■基本情報（フェースシート）……5

ジェノグラム……5

●図1 ジェノグラムの書き方……5

■基本情報……5

作成完了日……5

記入担当者の職種……5

現在の保育形態・教育機関・所属先・就労状況……5

主たる問題（主訴）……5

●表1 主たる問題（主訴）一覧……6

■子ども/青年の心身の健康の様子を知る

現在の心身の健康……6

身体発育……6

●図2 成長曲線（女子）……21

●図3 成長曲線（男子）……22

歯科学的発達状況……6

●表2 乳歯の発達……6

●表3 永久歯の発達……7

栄養状態……7

哺乳・摂食状況（食欲）……7

不自然な身体損傷……7

全般的な発達の程度……7

発達の全体像の把握……7

●表4 運動発達のめやす……7

●表5 言語発達のめやす……8

●表6 社会性の発達のめやす……8

疾患・障害……8

●表7 主な身体疾患および身体障害の種類……8

●表8 主な子ども/青年の精神障害……9

情緒・行動上の問題……10

●表9 情緒・行動上の問題リスト……10

情緒・行動上の問題傾向……10

自閉性スペクトラム障害傾向の徴候……10

反応性愛着障害・脱抑制型対人交流障害の徴候……10

反社会的問題行動傾向……10

注意欠如・多動性障害の徴候……11

学習障害傾向……11

抑うつ傾向……11

アルコール・タバコ・薬物使用……11

登校・出勤困難……11

学校・職場での孤立感……11

学校での反社会的行動……11

家庭内での暴力……12

自傷的行動……12

社会的ひきこもり……12

■子ども/青年の発達の特徴を知る

発達の特徴……12

自己意識・情緒発達……12

他者との関係性の発達……12

知的能力の発達……12

日常生活能力の発達……12

●表10 日常生活能力の発達めやす表……13

社会的規範意識の発達……13

道徳意識……13

職業意識……13

発達課題の達成状況……13

●表11 発達課題……13

子ども/青年の行動特徴……13

人見知り傾向……13

持続・集中性……13

不安傾向……13

衝動のコントロール性……13

生活のリズム……13

子ども/青年の好きな活動……14

●表12 子ども/青年の好きな活動リスト……14

パートII 家庭

■家族の心身の健康の様子を知る

家族の心身の健康……15

- 養育者の身体疾患・障害……15
- 養育者の精神障害……15
- 養育者の健康に関する問題……15
 - 人格障害傾向……15
 - 抑うつ傾向……15
 - アルコール乱用度……15
 - 家庭内での暴力……15

■個々を大切に信頼しあう……15

- 家族関係（2者関係）……15
 - 主たる養育者が感じている親子関係……15
 - 夫婦関係……15
- きょうだいの関係……15
 - 対象の子どものきょうだいの関係……15

■安心・調和を

基盤にして共に生きる……15

- 家族関係の安定性……15
 - 家族のまとまり……15
 - 養育者の家庭重視度……15
- 家族の問題解決機能……16
 - 問題解決志向性……16

■基本的な生活を営める……16

- 家庭の社会・経済的状況……16
 - 養育者の就労状況……16
- 表13 最終学校以降の就労パターンリスト……16
- 養育機能……16
 - 対象の子どもへの基本的ケア……16
 - 温かい関わり……16
 - 過干渉……16
 - 不適切な養育行動……16
 - 主たる養育者の子育てストレス……16
 - 主たる養育者の子育ての相談相手・預け先……16
- 表14 子育ての相談相手・預け先リスト……17
 - 子育てのサポートに対する主観的評価……17

■青年後期（18歳到達以降）版の婚姻（内縁含む）家庭版について……17

パートIII 地域

■健全な養育環境を持つ地域社会……18

■関連施設（福祉・保健・教育）……18

- 家庭外の養育施設の環境（保育所、幼稚園、学校など）……18
 - 養育・学校環境の適切さ……18
 - 園・学校と家庭（養育者）との連帯の状態……18

■ソーシャル・サポート……18

- サポートの資源……18
- サービスの活用状況……18
 - 表15 相談相手リスト……19
 - 表16 子ども・家庭に対する地域の支援機関リスト……19
 - 表17 子育て関連事業リスト……20
 - 表18 就労支援関連事業リスト……20
 - 表19 生活支援関連事業リスト……20
 - 図2 成長曲線（女子）……21
 - 図3 成長曲線（男子）……22

はじめに

本冊子（以下「めやす表」）は、「子ども家庭総合評価票」（以下「評価票」）および、「総括一覧シート」の記入と活用のために必要な情報をまとめたものです。

評価票と総括一覧シートは、相談内容と子どもの年齢に応じて、以下の5種類を用意しています。本めやす表は、全種類共通版です。

- ・乳児期（0歳～2歳未満）
- ・幼児期（2歳～就学前）
- ・児童期（小学校1年生～4年生）
- ・思春期（小学校5年生～中学3年生）
- ・青年中期（中学卒～17歳）
- ・青年後期（18歳到達後以降）

評価票と総括一覧シートは、ケースとなったお子さんの、以下の3つの点についての情報を集めて整理し、ケースの理解や支援計画作成時の基礎資料として利用していただくものです。

- (1) 現在の発達状況や心身の健康度、活動のようすや、生育歴といった子ども自身の特徴
→該当部分：パートⅠ 子ども/青年
- (2) 子どもが生まれ育った家庭の養育機能を中心とした特徴
→該当部分：パートⅡ 家庭
- (3) 子どもと家庭を取り巻く地域の特徴やサポート力
→該当部分：パートⅢ 地域

記載にあたっては、本人および家族や保育士・教師などからの聞き取り、当該機関でおこなう心理診断・社会診断・医学診断の結果などから情報を収集し、各評価票の表紙裏にある記入要領にしたがってケースの特徴を評価してください。

評価票では、それぞれのケースが持つ「子ども自身・家庭・地域の問題性（困難さ：Difficulty）」と、「良好に機能している面（強み：Strength）」の両面を評価していきます。

評価票の記載が終わりましたら、各項目の評価得点（粗点）を総括一覧シートに転載します。支援の課題を参照し、ケースのまとめや支援計画作成に役立ててください。

◆本冊子の使い方・・・・・・・・・・・・・・・・

本冊子は、評価票の内容を解説し、①評価のめやすとなる解説部分と、②評価票に記入するための各種一覧表によって構成されています。特に解説の必要がない項目については、省略しています。評価票には、本冊子に解説が掲載されている項目や、一覧表を見て記入する部分については、マークとページ数を明記しています。マークのある部分は、本冊子の該当ページで内容を確認してください。

パートI 子ども/青年

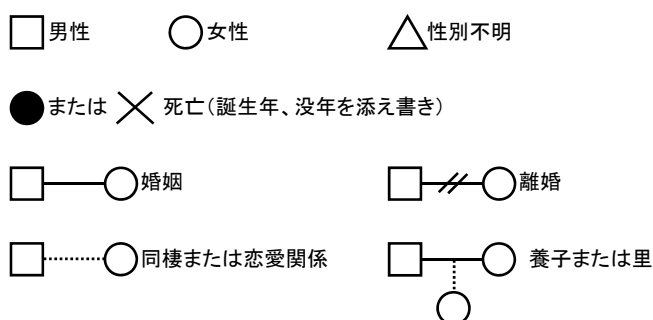
■基本情報（フェースシート）

●ジェノグラム

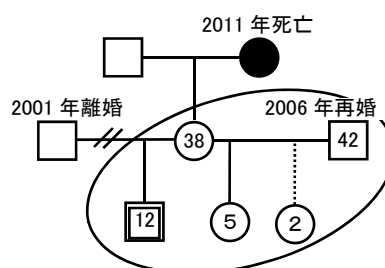
以下を参考にして、原則として3世代をさかのぼる家族（同居、関係が深い人を含む）を書いてください。同居の家族は、線で囲み、子どもは右から、第一子第二子と順に配置し、中に年齢を記入します。

図1 ジェノグラムの書き方

<凡例>



<例>



■基本情報

●作成完了日

評価票の記載が完了した年月日と担当者氏名を記入します。複数の担当者が記入を分担した場合は、全員の氏名を記入してください。

●記入担当者の職種

評価票の記載をおこなった担当者の職種を番号から選び○印を付けます。複数の担当者が記入を分担した場合は、全員の職種に印を付けてください。

●現在の保育形態・教育機関・所属先・就労状況

現在通園・通学している保育・教育機関・所属先の番号を選びます。

●主たる問題（主訴）

主たる問題（主訴）は、下欄から選んでカッコの中に数字を記入してください。各カテゴリーの「その他」および「その他の相談」を選択された場合には、具体的な内容を評価票の「特記事項」の欄に記入してください。記号は「1-1」「6-4」というように、ハイフン（-）のついた数字を記入してください。

表1 主たる問題（主訴）一覧

1.非行	1-1. 窃盗・万引き 1-2. 強盗 1-3. 性的逸脱（援助交際を含む） 1-4. 恐喝 1-5. 家出 1-6. 放火 1-7. 粗暴 1-8. 傷害 1-9. 薬物 1-10. その他	4.育成	4-1. 不登校 4-2. 引きこもり 4-3. 反抗挑戦的行動 4-4. 友人関係 4-5. 注意欠如・多動 4-6. 家庭内暴力 4-7. 緘黙 4-8. 学業不振 4-9. 生活自立困難（18歳以降のみ） 4-10. 就業意欲欠如（18歳以降のみ） 4-11. 親子関係不調 4-12. その他
2.養護	2-1. 保護者の家出失踪 2-2. 保護者の死亡 2-3. 離婚 2-4. 保護者の服役 2-5. 保護者の入院 2-6. 保護者の精神障害（疑いを含む） 2-7. 保護者の身体障害・疾患 2-8. 未婚 2-9. 保護者の経済問題（貧困、借金など） 2-10. 養育拒否 2-11. 遺棄 2-12. ホームレス（住所不定、放浪など） 2-13. その他	5.保健	5-1. 未熟児 5-2. 虚弱 5-3. 病気 5-4. その他
3.虐待	3-1. 身体的虐待 3-2. 心理的虐待 3-3. ネグレクト 3-4. 性的虐待 3-5. DVの目撃 3-6. その他	6.障害	6-1. 肢体不自由 6-2. 発達障害 6-3. 重症心身障害 6-4. 知的障害 6-5. その他の精神障害 6-6. 視聴覚障害 6-7. 言語・音声障害 6-8. その他
		7.その他の相談	7-1. 育児に関する相談 7-2. その他

■ 子ども/青年の心身の健康の様子を知る

……現在の心身の健康

ここでは、子ども/青年の心身の発育や発達に歪みや異常、遅れが認められないかどうかをみていきます。

●身体発育

身長・体重とも、本冊子巻末の男女別成長曲線上にプロットして判断してください。

図2 成長曲線（女子）……めやす表21ページ

図3 成長曲線（男子）……めやす表22ページ ※18歳到達以降版は、BMIにより評価

●歯科学的発達状況（2歳～小学校4年生の場合に評価）

以下を参考にして、歯科学的発達状況を判断してください。

表2 乳歯の発達

6～8ヶ月頃	下前歯2本程度	12ヶ月頃	8本程度（上下前歯4本ずつ）
9～10ヶ月頃	4本程度（上下前歯2本ずつ）	1歳6ヶ月～2歳	16本程度（＋犬歯）
10～11ヶ月頃	6本程度（上前歯4本・下前歯2本）	2歳～3歳	3歳頃までに20本完了（＋第2乳臼歯）
1～1歳3ヶ月	14本程度（前歯＋第1乳臼歯）		

表3 永久歯の発達

5～7 歳頃	上下の奥歯（第 1 大臼歯）が生えてくる
6～8 歳頃	上下の中切り歯と側切歯各 4 本計 8 本程度
9～11 歳頃	犬歯が生えてくる
10～12 歳頃	第 1・第 2 小臼歯
11～13 歳頃	第 2 大臼歯が生え、計 28 本が出揃う

●栄養状態

哺乳・摂食状況（食欲）

最近1ヶ月程度の期間について、病気ではないときの食欲について情報収集してください。食欲不振、偏食傾向についてそれぞれ判断してください。また、思春期以降は、自発的排出行動を伴う異常な過食行動の有無についても情報を収集します。

★留意点

身体的原因や養育上の問題からではなく十分に食べないことが継続し、体重増加がまったくないか、または著しい体重減少を伴う場合や、あるいは極端な過食（自発的嘔吐などを伴うこともある）が見られる場合は、DSM-5の神経性無食欲症、神経性大食症を疑う必要があるので、精査してください。

●不自然な身体損傷

身体検査時などに不自然なあざ、やけど、傷などの身体的損傷の有無を確認してください。

●全般的な発達の程度

発達の全体像の把握（発達スクリーニング調査および発達検査の実施について）：発達状況をできるだけ網羅的にアセスメントすることが可能なスクリーニング調査（例：デンバー□プレススクリーニング質問紙、2003など）や、養育者・保育者へのアンケートや聞き取り、観察、母子健康手帳の記録、電話でのインタビューなど（状況に合わせて工夫する）を実施してください。発達の遅れが疑われる場合には、発達検査（例：Denver II：デンバー発達判定法、2003など）を実施してください。

スクリーニング検査および精査の結果、下のめやす表（乳・幼児期のみ）などから全般的な発達状況について評価してください。

表4 運動発達のめやす（Denver II, 2003より）

粗大運動の発達

3～4 ヶ月	首すわり
5～6 ヶ月	寝返り
7～8 ヶ月	おすわり
9～10 ヶ月	つかまり立ち
12～14 ヶ月	ひとりで 2 秒立つ
13～15 ヶ月	ひとりで 10 秒立つ
15～17 ヶ月	上手に歩く
18～20 ヶ月	走る
20～22 ヶ月	階段を登る
2 歳～2 歳半頃	両足でジャンプする
3 歳半～4 歳頃	けんけんをする
4 歳～5 歳頃	片足立ち

微細運動の発達

1～2 ヶ月	正中線を越えて追視する
3～4 ヶ月頃	ガラガラを握る
3～4 ヶ月	180° 追視する
5 ヶ月頃	物に手を伸ばす
9～10 ヶ月頃	親指を使ってつかむ
14～16 ヶ月頃	自発的ななぐり書きをする
18～19 ヶ月頃	積み木を 2 個つめる
2 歳頃	積み木を 6 個つめる
3 歳頃	縦の線を模倣できる
3 歳半頃	○を模倣できる
4 歳半頃	□を模倣できる
5 歳～歳	人物画を描く

表5 言語発達のめやす (Denver II, 2003より)

出生時	ベルの音に反応する	20～22 ヶ月頃	6 語を言う
1～2 ヶ月頃	「アー」「ウー」などの声を発する	22～24 ヶ月頃	絵を指差す
2～3 ヶ月頃	声を出して笑う	2 歳頃	2 語文を話す
5～6 ヶ月頃	声の方に振り向く	2 歳半～3 歳頃	動作を表す言葉が 2 つ以上理解できる
7～8 ヶ月頃	パ・ダ・マなどを言う	3 歳頃	色の名前を言う
14～18 ヶ月頃	意味ある 1 語をいう	4 歳～4 歳半頃	前後上下が理解できる
17～19 ヶ月頃	パパ、ママ以外に 2 語を言う	4 歳半～5 歳頃	5 まで数える
18～20 ヶ月頃	3 語を言う	5 歳～6 歳頃	単語を定義できる

表6 社会性の発達のめやす (Denver II, 2003より)

出生～3 ヶ月頃	顔を見つめる、自分から笑いかける	14～18 ヶ月頃	簡単なお手伝い
2～3 ヶ月頃	あやすと笑う	15～20 ヶ月頃	スプーンを使う
2～4 ヶ月頃	自分の手を見つめる	17～23 ヶ月頃	人形に食べさせる真似
4～6 ヶ月頃	手の届かないところにおいた玩具を取ろうとする	20 ヶ月～2 歳頃	上着などを脱ぐ
5～8 ヶ月頃	自分で食べる	21 ヶ月～2 歳頃	手伝ってもらい歯を磨く
8～12 ヶ月頃	拍手をまねる	21 ヶ月～2 歳頃	手を洗ってふく
8～12 ヶ月頃	泣かずにほしいものを示す	26 ヶ月～3 歳頃	上着、靴などをつける
9～12 ヶ月頃	バイバイをする	2 歳～3 歳頃	友だちの名前を言う
10～12 ヶ月頃	大人の真似をする	2 歳～3 歳頃	T シャツを着る
11～15 ヶ月頃	判定者とのボールのやりとり	3 歳頃	ひとりで服を着る
11～16 ヶ月頃	コップで飲む	3 歳～4 歳頃	簡単なゲームをする
		3 歳～4 歳頃	ひとりで歯を磨く

●疾患・障害

心身の疾患・障害については、下にある「主な身体疾患および身体障害の種類」（表7）から該当する記号や番号を書いてください。2つ以上ある場合は数字を併記してください。また、「その他」を選択された場合は、具体的な内容を下線部分に記入してください。なお、知的障害については、9ページの「主な子ども/青年の精神障害」（表8）の当該番号「1.」を記入してください。

表7 主な身体疾患および身体障害の種類

主な身体疾患

a. 外科系
b. 内科系
c. 皮膚の病気（c-1. アトピー性皮膚炎）
d. 耳鼻科・眼科の病気
e. 先天異常
f. その他

主な身体障害

g. 視覚障害
h. 聴覚障害（難聴）
i. 言語・音声障害（嚥唾）
j. 肢体不自由
k. 内部（内臓器）障害・免疫機能障害
l. その他

表8 主な子ども/青年の精神障害 (DSM-5, アメリカ精神医学会2013より)

神経発達障害群	1. 知的能力障害群 2. コミュニケーション障害 2-1. 言語障害 2-2. 語音障害 2-3. 小児期発症流暢障害 2-4. 社会的コミュニケーション障害 3. 自閉性スペクトラム障害 4. 注意欠如・多動性障害 5. 限局性学習障害 6. 運動障害群 6-1. 発達性協調運動障害 6-2. チック障害
統合失調スペクトラム障害および他の精神病障害群	7. 統合失調症
双極性障害および関連障害群	8. 双極性障害
抑うつ障害群	9. 重篤気分調節症 10. うつ病 11. 持続性抑うつ障害（気分変調症）
不安障害群	12. 分離不安障害 13. 選択制緘黙 14. 限局性恐怖症 15. 社交不安障害 16. パニック障害 17. 広場恐怖症 18. 全般性不安障害
強迫性障害および関連障害群	19. 強迫性障害 20. 醜形恐怖症 21. 抜毛症
心的外傷およびストレス因関連障害群	22. 反応性愛着障害 23. 脱抑制型対人交流障害 24. 心的外傷後ストレス障害 25. 適応障害
解離性障害群	26. 解離性同一性障害 27. 解離性健忘 28. 離人感・現実感消失障害
身体症状症および関連症群	29. 身体症状症 30. 病気不安症 31. 転換性障害
食行動障害および摂食障害群	32. 異食症 33. 反芻性障害 34. 回避・制限性食物摂取障害 35. 神経性無食欲症 36. 神経性大食症 37. 過食性障害
排泄症群	38. 遺尿症 39. 遺糞症
睡眠・覚醒障害群	40. 不眠障害 41. 過眠障害 42. ナルコレプシー
性別違和	43. 性別違和
パラフィリア障害	44. 窃視・窃触・露出障害等
秩序破壊的・衝動制御・素行症群	45. 反抗挑戦性障害 46. 間欠性暴発性障害 47. 素行障害
物質関連障害および嗜癖性障害群	48. 物質関連障害群 49. ギャンブル障害
パーソナリティ障害群	50. 反社会性パーソナリティ障害 51. 境界性パーソナリティ障害
その他	52. その他

●情緒・行動上の問題

表9 情緒・行動上の問題リスト

1. 自閉的傾向（人に対して反応しない、視線が合わないなど）
2. 養育者との関係性（なつかない、過度の反抗、養育者への暴力など）
3. 注意欠如・多動傾向（落ち着かない、過度の注意散漫など）
4. 反社会的行動傾向（いじめ、過度で頻繁なけんか、嘘、窃盗、放火、粗暴など）
5. 抑うつ傾向（継続的な落ち込み、食欲不振、自殺念慮など）
6. 学習障害傾向（特異的な読み書き・計算の問題）
7. 物質使用（アルコール、タバコ、薬物）
8. 自傷行為（リストカット、自殺未遂など）
9. 集団不適応（不登校、学校や職場などでのいじめられ、孤立、いじめ、反抗など）
10. 家庭内暴力
11. 社会的ひきこもり（長期にわたる外出拒否）
12. 排泄問題（夜尿、遺糞など）
13. 摂食障害傾向（拒食、過食、異食など）
14. 睡眠問題（不眠、過眠など）
15. ギャンブル（お金を使った賭け事等）・ゲームへの過度の依存
16. 性嗜好（盗撮、痴漢等）の問題
17. その他

●情緒・行動上の問題傾向

自閉性スペクトラム障害傾向の徴候（月齢4ヶ月以上の場合に評価）

以下の質問を養育者にするか観察により評価してください。

＜乳児～幼児＞

- *他の子ども達に対して関心がある
- *何かに対する関心を示す時に、人差し指を使って差す
- *周囲の人に何かを見せるために、物を持ってくる
- *周囲の人が表情を作ると真似するなど、模倣がある
- *名前を呼ぶと応える
- *部屋の向こうにある玩具を指差すと、そちらの方を見る

＜児童～＞

- *目立った言葉の遅れはないものの、人とコミュニケーションするときに、気持ちが通わないことがある
- *融通がきかず、ひとつのことにこだわり続ける
- *初めての場所・状況が極度に苦手な慣れることができない

反応性愛着障害・脱抑制型対人交流障害の徴候（2歳以上の場合に評価）

子どもが2歳を過ぎている場合、以下の2項目のどちらかにあてはまるかどうか、養育者に対する質問あるいは観察によって評価してください。どちらかにあてはまる場合には、不適切な養育（愛着など基本的な情緒的欲求や身体的欲求の持続的な無視など）がないかどうか、背景情報から検討する必要があります。

反応性愛着障害

- *子ども/青年は養育者に対していつも警戒し、緊張し、触れられることに抵抗したり、拒否する

脱抑制型対人交流障害

- *見知らぬ人を含め、だれかれかまわず過度になれなれしく、極端ななつき方を示している

反社会的問題行動傾向（3歳以上の場合に評価）

以下の項目にあてはまる行動がしばしばみられるかどうか、養育者に質問するかあるいは観察によって評価してください。すべてにあてはまる場合には、対象の子どもはこの年齢段階での行為の反社会性を有している可能性が示唆され、対人関係の困難に関連するかもしれません。

- *カッとなったり、かんしゃくを起こしたりする事がある
- *他の子とけんかをしたり、いじめたりする
- *うそをついたり、ごまかししたりする

注意欠如・多動性障害の徴候（4歳以上の場合に評価）

以下の項目にあてはまる行動がしばしばみられるかどうか、養育者に質問するかあるいは観察によって評価してください。すべてにあてはまる場合には、対象の子どもはこの年齢段階での多動傾向や注意散漫さを有している可能性が示唆され、集団生活上の困難に関連するかもしれません。

- ＊すぐに気が散りやすく、注意を集中できない
- ＊落ち着きがなく、長い間じっとしてられない
- ＊いつもそわそわしたり、もじもじしている

学習障害傾向（小学校1年生以上の場合に評価）

以下の項目にあてはまる行動がしばしばみられるかどうか、養育者や教師に質問するかあるいは観察によって評価してください。どれかにあてはまる場合には、対象の子どもは読む、書く、計算能力における特異的な問題を有している可能性が示唆され、DSM-5（アメリカ精神医学会、2013）の特異的学習障害に相当しないかどうか精査します。

- ＊全般的な知的発達や言葉の発達は正常なのに、
ひらがなやかたかなを覚えられなかったり、思い出せないことがある
- ＊全般的な知的発達や言葉の発達は正常なのに、どんなに練習しても漢字が覚えられないことがある
- ＊全般的な知的発達や言葉の発達は正常なのに、
たし算やひき算の繰り上がり・繰り下がりが覚えられないことがある

抑うつ傾向（小学校1年生以上の場合に評価）

以下の項目にあてはまる行動が1週間以上にわたって継続してみられるかどうか、本人、養育者、教師に質問するかあるいは観察によって評価してください。すべてにあてはまる場合には、対象の子どもは抑うつ状態にあることが示唆され、DSM-5、（アメリカ精神医学会、2013）などのうつ病性障害などに相当しないかどうか精査します。

- ＊ほとんど一日中、いらいらしたりふさぎこんだりしている
- ＊食事が楽しめず、食欲もない
- ＊生きていてもしかたがない、死にたいなどと言う

アルコール・タバコ・薬物使用

（中学卒業以上の場合に評価。ただし養護・虐待・非行・育成相談版は小学校5年生以上から。）

飲酒・喫煙・薬物の使用について、以下の3つのめやすに当てはまるかどうか、養育者や本人などに質問するか観察などから情報を得て評価します。

- ＊飲酒をしている（1週間に2回以上）
- ＊喫煙をしている（毎日数本以上）
- ＊薬物（シンナー、麻薬・覚せい剤など）を使用したことがある

登校・出勤困難（小学校1年生以上の場合に評価）

学校に通学している場合、登校に関する以下の項目について（就職している場合は出勤について）、本人、養育者に質問するかあるいは観察によって評価してください。

- ＊病気や家庭の事情ではないのに学校（職場）を休む
- ＊学校（職場）のことを考えただけで緊張することがある（ようだ）
- ＊登校（出勤）時に頭痛、腹痛、気持ち悪さなどを訴える

学校・職場での孤立感（小学校1年生以上の場合に評価）

学校に通学している場合、学校での人間関係に関する以下の項目について（就職している場合は職場について）、本人、養育者に質問するか、あるいは観察によって評価してください。

- ＊学校（職場）でいじめられている（ようだ）
- ＊クラス（職場）のみんなに馬鹿にされないか気にしている（ようだ）
- ＊学校（職場）でみんなから嫌われている気がしている（ようだ）

学校での反社会的行動（児童期・思春期の場合に評価）

学校に通学している場合、学校での問題行動に関する以下の項目について、本人、養育者に質問するか、あるいは観察によって評価してください。

- ＊学校でだれかをいじめたことがある
- ＊授業中につまらなくなって教室を出て行ったことがある
- ＊学校で先生に反抗したり乱暴したことがある

家庭内での暴力（小学校1年生以上の場合に評価）

対象の子どもの家庭内での暴力傾向をチェックします。

家庭内での暴力	情報源は？： 1. 観察 2. 養育者 3. 本人 4. その他
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難	
⇒だれに： 1. 父親 2. 母親 3. きょうだい 4. 祖父 5. 祖母 6. その他	

※思春期版から抜粋

自傷的行動（幼児期以上の場合に評価）

以下のような行為、その他の自傷的な行動があるか、養育者に質問するか観察によって評価します。

自傷的行動	情報源は？： 1. 観察 2. 養育者 3. 本人 4. その他
4. よくある 3. 時々ある 2. あまりない 1. 全くない 0. 判断困難	
⇒具体的に： 1. 抜毛 2. 頭を壁に打ち付ける 3. 腕や手噛み、つねり 4. リストカット 5. その他	

※思春期版から抜粋

社会的引きこもり（青年期の場合に評価）

長期にわたって自室や自宅を出られないために、登校や出勤、友人付き合いなどの社会的活動ができなくなっている状態を指します。背景に統合失調症や強迫性障害などの精神障害が存在することもあり、診断を含めた自宅訪問を中心とする丁寧な相談が必要です。

社会的引きこもり	情報源は？： 1. 観察 2. 養育者 3. 本人 4. その他
部屋や自宅を出ることができず、社会的活動に参加していない	
4. 6ヶ月以上続いている：（ ）年（ ）ヶ月程度 3. 1～5ヶ月続いている 2. 1ヶ月未満の継続 1. 全くない 0. 判断困難	

※青年期版から抜粋

■子ども/青年の発達の特徴を知る……発達の特徴

●自己意識・情緒発達……自分を大切にする

子どもが自分という意識（自己認識）を発達させ、自分のイメージ（自己概念）をもったり、自己主張できるようになっていく過程のどこに現在あるかをみます。また、子どもが自分の内面の情緒をどのように表現できるようになっているかについても、ここでみていきます。

●他者との関係性の発達……他者を尊重し共に生きる

他者とコミュニケーションの発達のように、それぞれの発達段階での対人関係のありかたについてみていきます。

●知的能力の発達……考えて対処する

ものごとを認識したり、考えていく意欲や能力の発達をみていきます。

知能検査や発達検査の結果、7ページの「微細運動の発達」（表4右）と8ページの「言語発達のめやす」（表5）などから判断してください。微細・言語の両方ともに問題があれば認知（知的）発達の遅れが疑われます。

学業達成（国語、算数／数学、理科、社会、英語などの基礎教科について）は、対象の子どもが就学している場合に情報収集してください。

●日常生活能力の発達……基本的な生活を営める

年齢相当の身辺自立が達成されているかどうか、検査（新版S-M 社会生活能力検査など）や観察、次ページの「日常生活能力の発達めやす表」（表10）などから判断してください。

日常生活動作の発達、道徳性などの社会的規範の獲得、職業に対する意識の発達など、社会生活を送っていくうえで必要なスキルの獲得状況についてみます。

表10 日常生活能力の発達めやす表 (Denver II：新版S-M社会生活能力検査)

生後6ヶ月～	★生活のリズムの確立
14～17ヶ月頃	★コップで飲む
18～20ヶ月頃	★スプーンを使う
2歳過ぎ頃	★上着などを脱ぐ ★手伝ってもらって歯を磨く
3歳過ぎ頃	★Tシャツを着る
3歳～3歳半頃	★ひとりで服を着る
4歳～4歳半頃	★ひとりで歯を磨く
6歳6ヶ月～8歳5ヶ月	★ひとりで風呂に入れる（洗髪もひとりでできる） ★身近な事柄について簡単な文章（日記、作文など）が書ける ★将棋、トランプなど複雑なルールの遊びができる ★「横断禁止」「危険」などの標識がわかり、指示に従える
8歳6ヶ月～10歳5ヶ月	★いわれればひとりで部屋の掃除がきちんとできる（親が手伝わなくてもまかせることができる） ★注意されなくても人の話や説明を終わりまで静かに聞くことができる ★慣れた所なら電車やバスを使ってひとりで行ける（切符が買える） ★年下の子どもの世話や子守りなどを安心してまかせられる ★掃除機、洗たく機などの家庭電器器具が扱える ★わからないことばや表現を辞書で調べることができる
10歳6ヶ月～	★ボタンつけができる ★食事作法をきちんと守れる（音をたてたり、行儀の悪い姿勢など、人に不快な印象を与えない） ★相手の立場を考えて話すことができる ★おとなの指導者がいなくても、グループで会合やハイキング、スポーツなどの計画をたてて実行することができる ★はじめての所でも、人に道をたずねたり、地図で調べてひとりで目的地へ行ける

●社会的規範意識の発達

道徳意識（小学校1年生以上の場合に評価）

他人に迷惑をかけない、きまりは守る、あるいはばれなければ平気で悪いことをする、など。

職業意識（中学卒業以上の場合に評価）

進路について検討している、あるいは就労に夢や意欲、関心がない、など。

●発達課題の達成状況……自分らしく生きる

子どもの発達課題の達成状況を、下の発達課題めやす表に沿って判断してください。

表11 発達課題

乳幼児期（0～就学前）	養育者との安定した愛着形成
幼児後半期（4～6歳）～児童期	（小学校高学年） 集団生活への適応
思春期（小学校5年～中学生）	自律的行動の獲得と自立へのスタート
青年中期（中学卒～17歳まで）	自己同一性探求の開始
青年後期（18歳到達以降）	自己同一性探求の開始と最初の達成（就職・結婚等）

●子ども/青年の行動特徴

子どものふだんの様子について、養育者や保育者、教師などに尋ねるか、観察をして評価してください。

人見知り傾向：初対面のおとなや同年齢の子どもに対する恐れや羞恥感の強さ

持続・集中性：努力の持続性、粘り強さ

不安傾向：心配しやすさ、新奇なことへの予期不安など

衝動のコントロール性：なだまりにくさ、泣きの激しさなど（乳児のみ）

生活のリズム：睡眠や排泄、食欲などの体内リズムの規則正しさ（乳児のみ）

●子ども/青年の好きな活動

子どもがふだん楽しんでいる活動（趣味・特技など）があるかどうか、それはどのような活動か、養育者や本人、保育者・教師などに質問するか観察などから情報を得て記入します。

特に好きな活動がない場合は、1番目に好きな活動の欄に「18」を記入してください。

表12 子ども/青年の好きな活動リスト

1. 勉強	6. スポーツ
2. 読書	6-6. バレーボール、テニスなどの球技
3. 映画鑑賞（テレビ、ビデオ、DVDを含む）	6-7. スキー・スケート
4. 音楽鑑賞	6-8. 陸上競技
5. 楽器演奏・歌を歌う	6-9. その他
5-1. ピアノ	7. 外国語（英会話など）の学習
5-2. バイオリンなどの弦楽器	8. 手芸・裁縫
5-3. 管楽器（フルート、トランペットなど）	9. 料理
5-4. ギター、キーボード	10. お絵かき・絵画制作
5-5. 歌を歌う	11. 書道
5-6. その他	12. 作文・作詩などの文章制作
6. スポーツ	13. 舞踊（日本舞踊、バレエなど）
6-1. 野球	14. ゲーム（テレビゲームなど）
6-2. サッカー	15. パソコン（インターネット、プログラミングなど）
6-3. 水泳	16. ギャンブル（お金を使った賭け事）
6-4. 柔道・空手・剣道	17. その他
6-5. 体操	18. 特に好きな活動はない

パートII 家庭

■ 家族の心身の健康の様子を知る……家族の心身の健康

養育者を中心とする家族メンバーが、現在心身の状況に問題を持っているかどうかを、いくつかの側面について見ていきます。

● 養育者の身体疾患・障害

● 養育者の精神障害

主たる養育者とその他の養育者について、それぞれ診断や現在の通院の有無、入院経験、障害の認、養育の困難度について、養育者本人に質問するか観察などから情報を得て評価します。

● 養育者の健康に関する問題

主たる養育者、その他の養育者について、以下の3項目について養育者本人に質問するか観察などから情報を得て評価します。

人格障害傾向

抑うつ傾向

アルコール乱用度

家庭内での暴力

■ 個々を大切にして信頼しあう

親子関係、夫婦関係、きょうだい関係など、家族メンバー間の関係のもち方や、コミュニケーションのあり方について見ていきます。

● 家族関係（2者関係）

主たる養育者が感じている親子関係：子どもは自分になついていない、あるいは子どもが大切と思えるなど

夫婦関係：信頼しあえる、あるいは意見が一致しないなど

（＊夫婦関係は、内縁関係などを含む配偶者間の情緒的な関係を指す）

● きょうだいの関係

対象の子どものきょうだいの関係：対象の子どものきょうだいがある場合、以下の3項目について養育者に質問するか観察などから情報を得て評価します。

＊かわいがったりめんどうをみる、一緒に遊ぶなど、仲の良さはどうか

＊養育者はきょうだいに不公平に接していないかどうか

＊ぶつたりたいたりする激しいケンカが頻繁におこるかどうか

■ 安心・調和を基盤にして共に生きる

家族全体の関係性の安定度について、メンバーのまとまりのよさや、養育者の家庭生活に対する価値付けのあり方から見ていきます。

● 家族関係の安定性

家族のまとまり：メンバーのまとまりがない、あるいはまとまりが良く家庭に居心地のよさを感じられるなど

養育者の家庭重視度：仕事と家庭、趣味のバランスのとりかたなど

● 家族の問題解決機能

家族の協力のありかたについて、メンバー間の役割分担や家族の問題解決機能から見ていきます。

問題解決志向性：今回の主たる問題（主訴）に対する家族メンバーの認識と取り組みの状況について、家族間での認識があるか、解決のための努力をしようとしているか

■ 基本的な生活を営める

住居、生計、養育機能など、基本的な家庭経営が機能しているかどうか見ていきます。また、個々の家族のありかたの特徴や、これまでの家族・家庭の歴史（家族史）についても見ていきます。

● 家庭の社会・経済的状況

養育者の就労状況

主たる養育者とその他の養育者の最終学校以降の就労パターンと就労状況について、下の「最終学校以降の就労パターンリスト」（表13）などを参考にあてはまる数字を選んで記入してください。

表13 最終学校以降の就労パターンリスト

1. 最終学校卒業後、ずっと常勤職を続けている
2. 最終学校卒業してから、アルバイトやパートなどの非常勤職を続けている
3. 一時仕事を辞めて家にいた時期があったが、今は常勤職についている
4. 一時仕事を辞めて家にいた時期があったが、今は非常勤職についている
5. 対象の青年が生まれてからも仕事をしていた時期があったが、今はしていない
6. 対象の青年が生まれてから一度も仕事についたことはない
7. 最終学校卒業後、一度も仕事についたことはない
8. その他
0. 判断困難

● 養育機能

対象の子どもに対して、家庭で基本的な養育がなされているかどうかを評価します。観察や子ども本人、養育者、家族、保育・学校関係者などから情報を収集します。

対象の子どもへの基本的ケア：食事や入浴、清潔や着衣などの生活上のケアが十分になされているか

温かい関わり：子どもに対するていねいな応答、あるいは子どもの気持ちを汲まないなど

過干渉：自由を認めて束縛しない、あるいは口出したり強力にコントロールするなど

不適切な養育行動：乱暴に扱う、無視・拒否、暴力などの不適切な養育行動

主たる養育者の子育てストレス：主たる養育者の子育てに対する負担感（自分の時間がない、子どもの世話に手が焼けると感じている、など）について、養育者や家族に尋ねるか、観察して評価します。

主たる養育者の子育ての相談相手・預け先：主たる養育者の子育ての相談相手になってくれる人や、子どもを預かってくれる人など子育てサポーターが誰か、下の「子育ての相談相手・預け先リスト」（表14）から選び、番号を記入してください。

表14 子育ての相談相手・預け先リスト

1. 自分の親
2. 配偶者（パートナー）の親
3. 自分のきょうだい
4. 配偶者（パートナー）のきょうだい
5. 里親、児童養護施設などの施設職員
6. 友人
7. 近所の人
8. 職場の友人・知人
9. 子育てサークル
10. 子育て関連のホームページ
11. ベビーシッター
12. 保育所や行政の子育てサービス関連機関などの施設職員
13. かかりつけの医師
14. 保健師など保健所のスタッフ
15. 学校の教師
16. スクールカウンセラー
17. 児童委員（主任児童委員）
18. その他

子育てのサポートに対する主観的評価：主たる養育者が子育てのサポートに対してどのように感じているか、養育者本人や家族に尋ねます。

■ 青年後期（18歳到達以降）版の婚姻（内縁含む）家庭版について

青年後期（18歳到達以降）版の婚姻（内縁含む）家庭版は、対象の青年が結婚（内縁含む）して家庭を形成した場合に、その家庭について見ていきます。

項目の多くは【出自家庭（原家庭）版】と共通しているため、上記を参考に記入していきます。

なお、「妊娠中の生活（対象の青年が妊娠中、もしくは妊娠中の配偶者（妻）がいる場合に記入）」は、【婚姻（内縁含む）家庭版】に独自の項目となります。これらの項目を網羅的に把握し、妊娠中の生活やこれからの出産・育児が問題なく営めそうであるかを評価します。

パートIII 地域

■健全な養育環境を持つ地域社会

対象の子どもが生活する地域の養育環境としてのあり方について見ていきます。子どもの健全育成に関する地域の特徴やそこでの子どもの育成に関する取り組みの状況、対象の子どもの家庭がそれらにどのようにアクセスしているか尋ねます。

家庭と地域との交流状況や、地域の安全性、子育て関連の施設の有無、教育事業などの主催の有無およびそれらへの子どもや家庭の参加状況をみます。

■関連施設（福祉・保健・教育）

ここでは、対象の子どもが居住する地域の福祉・保健・教育機関の現況や、それらと対象の子どもの家庭との連携について見ていきます。

●家庭外の養育施設の環境（保育所、幼稚園、学校など）

子どもが所属している保育所や幼稚園、学校などの環境の良好さや、家庭との連携の状態について評価します。

養育・学校環境の適切さ：環境整備や人数など、良好な養育・教育が提供されているか

園・学校と家庭（養育者）との連携の状態：園や学校などとの信頼関係が形成されているか

■ソーシャル・サポート

ここでは、対象の子どもが生活する地域や養育者の職場・友人関係における子どもや家庭に対するサポート状況について見ていきます。サポート資源の有無と、その活用状況の2つの視点から検討していきます。ケースとなっている家庭が現在利用している社会的支援の種類や、将来支援が見込める人的資源および希望しているサービスについて情報収集します。

●サポートの資源

次の「相談相手リスト」（表15）を参照し、現在、子ども、養育者、家庭を支援してくれる人の有無と、これから支援をしてくれそうな人（期待できる人）を把握します。

●サービスの活用状況

ここでは、対象の子どもが居住する地域の福祉・保健・教育機関の現況や、それらと対象の子ども家庭との連携について見ていきます。

ケースとなっている家庭の近隣に、どのような利用可能なサービス機関やサービス事業があるか、また利用や参加の経験があったり、将来利用・参加を希望している機関やサービス事業があるかを尋ね、「子ども・家庭に対する地域の支援機関リスト」（表16）、「子育て関連事業リスト」（表17）の番号を記入してください。

表15 相談相手リスト

1. 自分の親
2. 配偶者（パートナー）の親
3. 自分のきょうだい
4. 配偶者（パートナー）のきょうだい
5. 里親、児童養護施設などの施設職員
6. 友人
7. 近所の人
8. 職場の友人・知人
9. 子育てサークル
10. 子育て関連のホームページ
11. ベビーシッター
12. 保育所や行政の子育てサービス関連機関などの施設職員
13. かかりつけの医師
14. 保健師など保健所のスタッフ
15. 学校の教師
16. スクールカウンセラー
17. 児童委員（主任児童委員）
18. その他

子育てのサポートに対する主観的評価：主たる養育者が子育てのサポートに対してどのように感じているか、養育者本人や家族に尋ねます。

表16 子ども・家庭に対する地域の支援機関リスト

1-1. 福祉事務所	1-8. 児童家庭支援センター
1-2. 保健所	1-9. 母子家庭等就業・自立支援センター
1-3. 市区町村の相談窓口	1-10. 各種電話相談
1-4. 市区町村保健センター	1-11. 児童委員・民生委員
1-5. 教育委員会	1-12. スクールカウンセラー
1-6. 少年サポートセンター	1-13. その他
1-7. 社会福祉協議会	

表17 子育て関連事業リスト

2-1. つどいの広場事業
2-2. 地域子育て支援センター事業
2-3. 休日相談支援等事業
2-4. 育児支援家庭訪問事業
2-5. 一時保育事業
2-6. ショートステイ事業
2-7. 訪問型一時保育事業（乳幼児健康支援一時預かり事業）
2-8. 特定保育事業
2-9. ファミリー・サポート・センター事業
2-10. 病後児保育
2-11. トワイライトステイ事業
2-12. 放課後児童健全育成事業
2-13. 特定不妊治療費助成事業
2-14. 乳幼児医療費公費負担制度
2-15. その他

表18 就労支援関連事業リスト

2-1. ハローワーク（求職）
2-2. 公共職業訓練
2-3. 就労訓練事業（生活困窮者自立支援法によるもの）
2-4. 就労継続支援A型（障害者総合支援法によるもの）
2-5. 就労継続支援B型（障害者総合支援法によるもの）
2-6. 就労移行支援（障害者総合支援法によるもの）
2-7. その他

表19 生活支援関連事業リスト

2-1. 家賃債務保証
2-2. 住宅入居等支援事業
2-3. 各種奨学金
2-4. 自立支援資金貸付事業
2-5. 地域生活支援事業（障害者総合支援法によるもの）
2-6. その他

図2 成長曲線（女子）

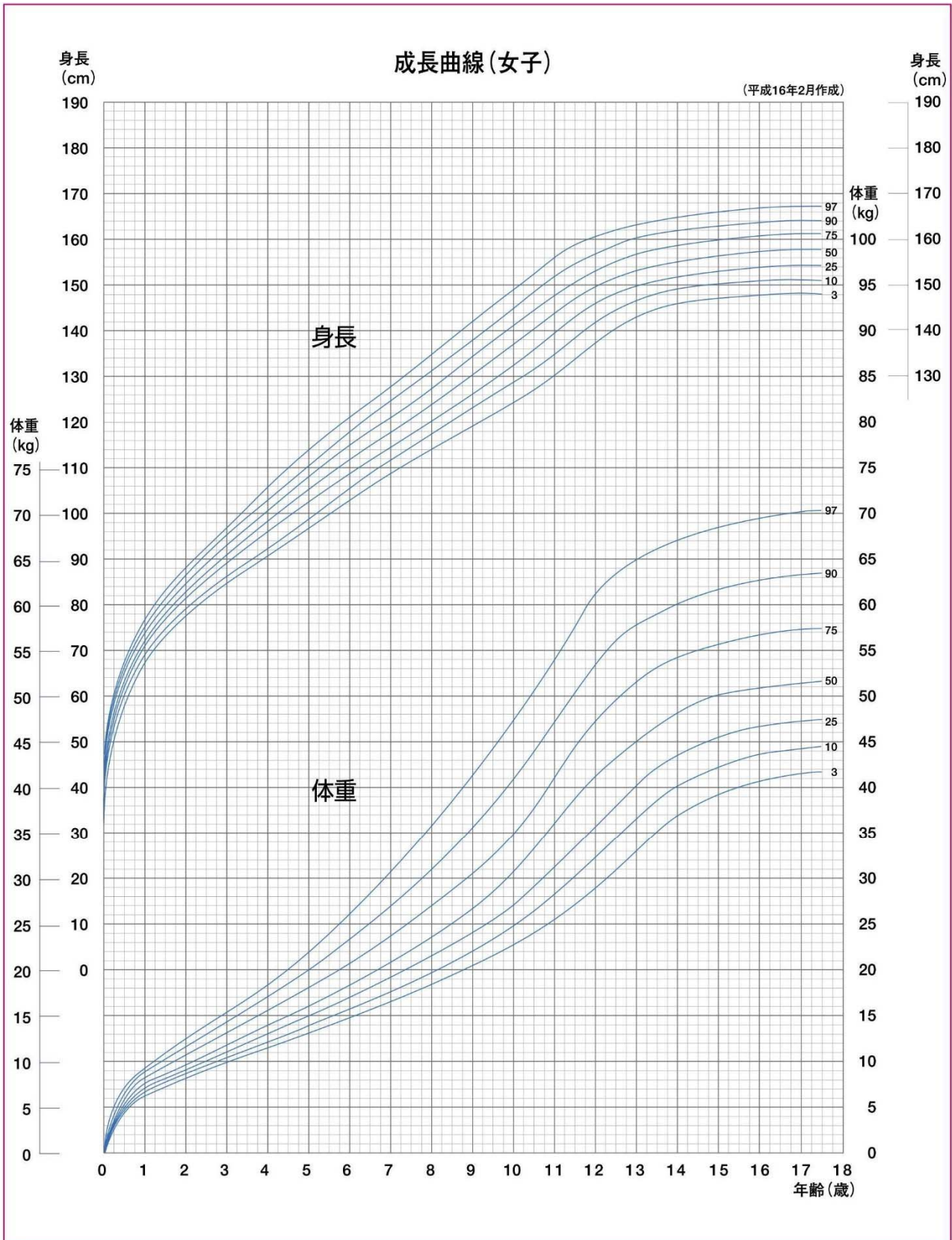
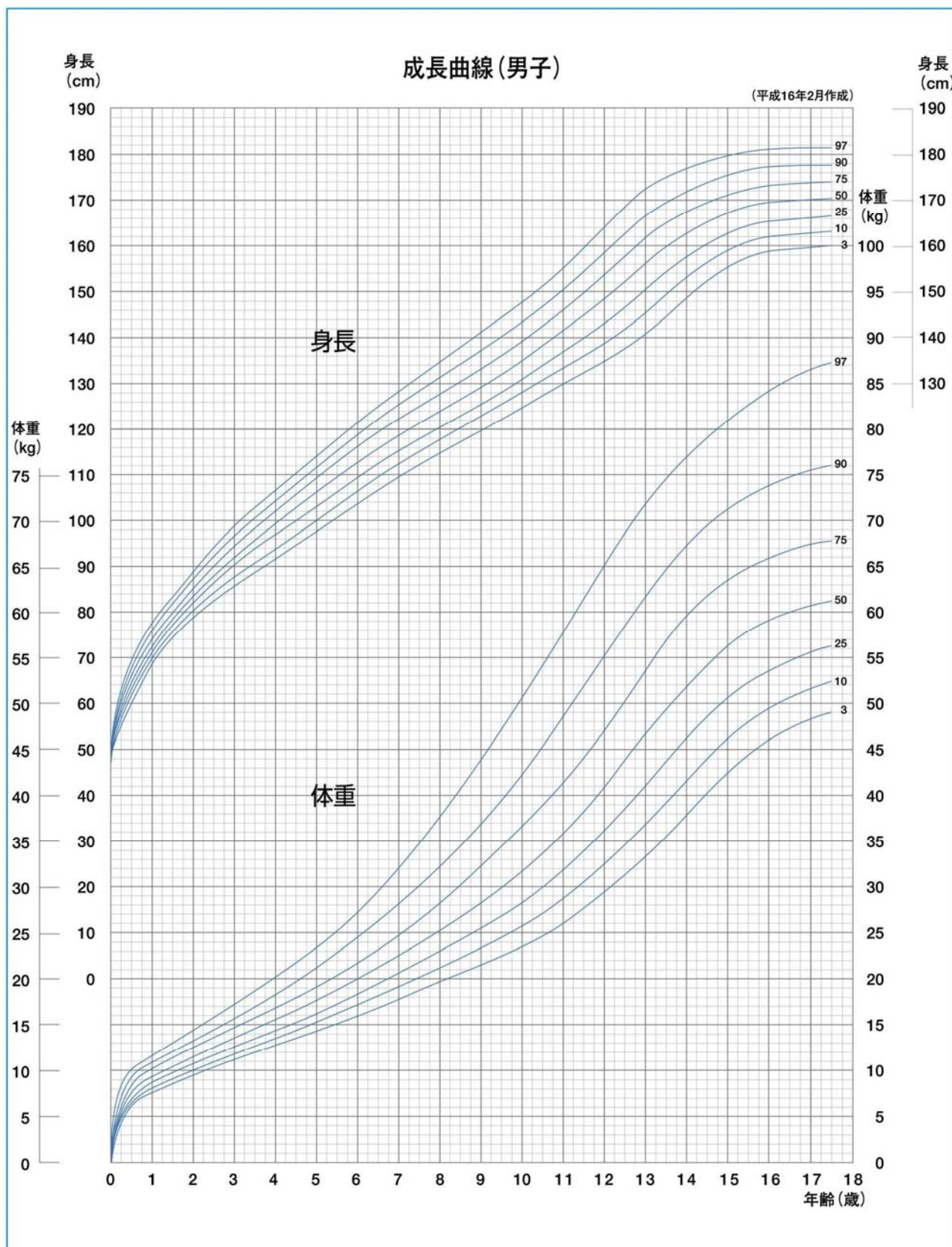


図3 成長曲線（男子）



(様式)

継続支援計画票

里親・施設名		作成者名			
フリカナ 子ども氏名		性別	男 女	生年月日	年 月 日 (歳)
キーパーソンと なりえる人の氏名		年齢		連絡先	
主たる問題					
本人の意向					
保護者の意向					
市町村・保育所・学校・職場 などの意見					
児童相談所の意見 及び協議内容					
【支援方針】					
第〇回 支援計画の策定及び評価 次期検討時期: 年 月					
子 ども 本 人					
【長期目標】					
【その理由・背景】					
	支援上の課題(問題)	支援目標	支援内容・方法	評価(内容・期日)	
【短期目標 (優先的 重点的 課題)】				年 月 日	
				年 月 日	
				年 月 日	

家 庭（養 育 者 ・ 家 族）				
【長期目標】				
【その理由・背景】				
	支 援 上 の 課 題（問 題）	支 援 目 標	支 援 内 容 ・ 方 法	評 価（ 内 容 ・ 期 日 ）
【短期目標（優先的重点的課題）】				年 月 日
				年 月 日
				年 月 日
地 域（学 校 ・ 職 場 等）				
【長期目標】				
【その理由・背景】				
	支 援 上 の 課 題（問 題）	支 援 目 標	支 援 内 容 ・ 方 法	評 価（ 内 容 ・ 期 日 ）
【短期目標】				年 月 日
				年 月 日
そ の 他				
【特記事項】				

(記入例)

継続支援計画票

里親名 ○○ ○○

作成者名

フリカ・ナ 子ども氏名	○○ ○男	性別	(男) 女	生年月日	○年 ○月 ○日(18歳)
キーパーソンと なりえる人の氏名	□□	年齢	30歳	連絡先	○○ ○○ ○○
主たる問題	自立して社会生活を送るだけの生活力の不足				
本人の意向	将来の進路として児童福祉の勉強をして福祉関係の仕事につきたい。現家庭との関係は改善してコミュニケーションは取れるが、過去の経験から自分も継母も同居は非常に不安であり、引き取りは不可能である。里親とも慣れており、できれば、里親宅から通学したい。				
保護者の意向	実父が病氣療養中であり、経済的にも余裕がなく、継母との関係も十分に修復されておらず、また弟が思春期になり行動の問題が出てきて、家庭に本児を受け入れ養育することは難しい。里親さんに大学卒業まで養育してもらいたい。				
市町村・保育所・学校・職場 などの意見	高校生活においては、野球部に所属し仲間とともに活動に打ち込み活躍していたし、学習面においても真面目に取り組んでいた。大学進学については賛成である。里親にもなじんでおり、里親も面倒を見たいと言っている。				
児童相談所の意見 及び協議内容	大学進学後も高校生活同様に、大学生活も送れるよう支援する。里親宅での日常生活においては、自分で弁当をつくるなど自立に向けて準備をしているものの、部屋の清掃や洗濯物の整理など基本的な生活スキルについては身につけておらず、アルバイトなどの経験もなく経済的な自立への準備もできていない。困ったときに人に相談して解決を図るといった問題解決スキルなどが獲得できておらず、大学・施設での生活などを通して、自立生活に必要な生活スキルなどを獲得できるよう支援する。				
【支援方針】大学生活への適応を図りつつ、交友関係において社会性の高い仲間との親密な関係の構築を図る。日常生活を通して自立生活に必要な生活スキル、問題解決スキルなどを獲得を図る。またアルバイト経験などを通して経済的な自立に向けた準備をする。さらに選挙での投票やボランティア活動などを通して市民的な自立を図る。親子関係の修復においては、肯定的な関係を保持できる最適な距離での交流を継続しながら、相互に受け入れあう可能な関係の構築を目指す。					
第○回 支援計画の策定及び評価			次期検討時期： 年 月		
子 ども 本 人					
【長期目標】 大学生活への適応を図りつつ、社会性の高い仲間との親密な関係の構築を図る。日常生活を通して自立生活に必要な生活スキル、問題解決スキルなどの獲得を目指す。					
【その理由・背景】 新しい社会的な環境である大学生活に適応できるよう支援する必要がある。特に交友関係においては、自分の遺志を継げることができずに振り回される傾向があることを踏まえ、社会性の高い仲間との親密な関係が構築できるようサポートする必要がある。また、卒業後に自立生活を送るために必要な生活スキルなどを身につけていないため習得する必要がある。					
	支援上の課題(問題)	支援目標	支援内容・方法	評価(内容・期日)	
【短期目標 (優先的 重点的 課題)】	大学生活への適応ができるかどうか、授業についていけない強い不安感を持っているのでその支援が課題である	新しい社会的な環境である大学生活への適応を図る。	日々の生活において、学生生活の状況を話やすくし、サポートする。必要に応じて、保護者として学校とのコミュニケーションも取る	年 月 日	
	自立生活に必要な生活スキルなどが未熟であるのが問題でその発達課題	日常生活を通して、自立生活に必要な生活スキルなどを習得する。	豊かな大学生活を送るため、日常生活における決まりごとや段取りを説明し、それに基づき生活を送るよう支援する。	年 月 日	
				年 月 日	

家 庭（養 育 者 ・ 家 族）				
【長期目標】 家族と肯定的な関係を保持できる最適な距離での交流を継続しながら、相互に受け入れあうことのできる関係の構築を目指す。地域における家庭支援を続け、いずれ本児が独り立ちした時に実家としての機能が果たせるような家族を目指す				
【その理由・背景】 施設入所後から、父親との実母の死亡の共有などの支援により、一時期は怒りが強くなったものの、徐々に落ち着き、生活にも現実感が出てきた。継母も地域支援を受け入れ、弟や異母妹への養育は改善されてきた。本児への拒否感もやや改善し、会えば普通にコミュニケーションは取れるようになったが、長期間一緒にいると拒否感が激しくなり、叫びたくなる状態となるため、同居は不可能であった。しかし、実父との関係が改善しており、本児も養子縁組は望まず、高校1年生の終わりに里親委託となった。高校3年生の初めに実父の難病が発症し、本児にとっては辛い体験となったが、帰宅時に実父の面倒を見ることで、会話が多くなり、実父との関係は返って良好となっている。1泊なら継母も本児を受け入れることができ、ある程度の距離をとった形での関係性の改善が望める状態にある。				
	支 援 上 の 課 題（問 題）	支 援 目 標	支 援 内 容 ・ 方 法	評 価（ 内 容 ・ 期 日 ）
【短期目標（優先的重点的課題）】	本児と継母との関係において、相互に否定的な感情や拒否的な態度が見られることが問題で、その遁滅が課題である	肯定的な関係を保持できる最適な距離での交流を継続しながら、親子関係の再構築を図る。	毎月1回週末の帰宅と、そのことを支援者と振り返る時間を確保し、関係調整を図る。	年 月 日
				年 月 日
				年 月 日
地 域（学 校 ・ 職 場 等）				
【長期目標】 BBS活動（友だち活動）などのボランティア団体や当事者団体を活用して、里親宅からの自立後も視野に入れて、本児の学生生活に対するサポート体制を確保する。				
【その理由・背景】 新しい環境の中では、何かトラブルがあった時や悩んだ際に、適切に対処する力が未だに不足していると考えられる。また、友達に好かれたいという思いが強く、仲間に引きずられる傾向があり、同世代の良き相談者が必要と考えられる。				
	支 援 上 の 課 題（問 題）	支 援 目 標	支 援 内 容 ・ 方 法	評 価（ 内 容 ・ 期 日 ）
【短期目標】	困ったときに、人に相談して解決を図るといった問題解決力や検討して自己判断・自己決定する力が習得できていない。危険回避が課題。	学生生活で困った場合に、ピアな関係で気軽に相談できるサポート体制を確保する。	BBS活動を活用して、定期的（月2回程度）に本児との交流を深め、相談できる関係や学生生活へのサポートを受ける。	年 月 日
				年 月 日
そ の 他				
【特記事項】				